

# The JIKKEI

2013 Summer Vol.21

特集

新体制のスタートにあたって

## 日本の看護教育はここから始まった

明治17年(1884)、学祖・高木兼寛はアメリカ人宣教師・看護婦のM.E.リード女史を招へいして、看護教育に取り組み、翌年には本学の源流である有志共立東京病院の構内に日本で初めて看護婦教育所を開設した。ここに「医師と看護婦は車の両輪の如し」という理想に向けた歩みが始まった。高木が留学したセント・トーマス病院には、ナイチンゲールが設立した看護学校があり、その影響を色濃く受けていたようだ。それから百年後の昭和59年(1984)10月には、慈恵看護教育百年記念式典が行われ、慈恵看護専門学校校の入口に「看護婦教育所創設之地記念碑」が建立された。



Contents

- 巻頭言** 1p 新体制で飛躍を…………… 理事長 栗原 敏
- 特集1** 2p 新体制のスタートにあたって 新学長からの抱負…………… 学長 松藤 千弥
- 特集2** 6p 新附属病院長の抱負…………… 附属病院長 丸毛 啓史
- 慈恵最前線** 8p 腎がんに対する経皮的凍結療法について…………… 原田 潤太  
独特の特徴を持つ凍結治療への取り組みとこれまでの成果
- 視点** 10p 本学における臨床教育改革…………… 宇都宮 一典  
新任の教学委員長としてどう取り組むのか
- 研究余話** 11p 磁力で回収できる放射性セシウム除染剤の開発…………… 並木 禎尚  
【予防医学に貢献!! 本学発・世界初の異分野融合技術】
- 随想** 12p 「看護学教育雑感」…………… 櫻井 美代子  
一感じとり応答する能力を伸ばす
- 学内めぐり** 13p 患者支援・医療連携センター「同窓開業医マップ」運用開始…………… 常喜 達裕
- 施設・設備** 14p 看護学科校舎増・改築について
- The JIKEI NEWS FLASH** 15p 新任教授紹介/平成25年度医学部医学科・看護学科入学式/  
第1258回成医会例会開催/高規格救急車贈呈式挙行 など
- 生涯学習** 22p 各種セミナーや研修会への取り組み
- BULLETIN BOARD** 23p 行事
- 24p 財務報告
- 29p 補助金・助成金
- 30p 公示
- 35p 学事・慶弔
- 36p 東京慈恵会公報
- 37p 学校法人 慈恵大学 行動憲章／行動規範
- 38p 創立百三十年記念事業募金  
寄付者名簿  
ご寄付のお礼

■平成25年(2013)主な行事予定  
【7月～12月】

- 7月13日(土) 看護学科第1回オープンキャンパス (午後1時～看護学科1階大講堂)
- 7月14日(日) 看護学科第2回オープンキャンパス (午前10時～看護学科1階大講堂)
- 8月3日(土) 慈恵医大夏季セミナー (午後4時～大学1号館講堂)
- 8月16日(金) 医学科第1回オープンキャンパス (午後1時30分～中央講堂)
- 8月17日(土) 医学科第2回オープンキャンパス (午後1時30分～中央講堂)
- 9月28日(土) 医学科第3回オープンキャンパス (午後1時30分～大学1号館講堂)
- 10月5日(土) 同窓会支部長会議並びに学術連絡会議 (午後3時～中央講堂)
- 10月10日(木)・11日(金) 第130回成医会総会
- 10月12日(土) 募参 (午後3時30分中央棟前集合)
- 10月15日(火) 高木兼寛先生記念日
- 10月19日(土) 卒業50周年を迎えた方々との懇親会
- 10月28日(月) 第109回解剖諸霊位供養法会 (午後1時～増上寺)
- 11月2日(土) 父兄会秋期総会 (午後3時～大学1号館講堂)
- 懇親会 (午後4時30分～4階学生ホール)
- 12月25日(水) 教授・准教授懇親会 (午後6時～)

【巻頭言】



理事長 栗原 敏

新体制で飛躍を

本年4月から学校法人慈恵大学は、新たな体制で運営されています。

昨年11月の教授会で松藤千弥教授が学長に、丸毛啓史教授が附属病院長に選任され、理事会で正式に選定されました。理事会では松藤学長から私が理事長に推薦され、皆様の承認を得て理事長を務めることになりました。

これまで長い間、私が理事長と学長を兼務していましたが、今後は、学校法人全体の統括責任者は理事長、大学の管理運営責任者は学長となり、本学も文部科学省が考えている学校法人としてのあるべき体制になりました。

学校法人慈恵大学は、東京慈恵会医科大学と看護専門学校(第三および柏看護専門学校)を設置しており、医師や看護師の育成に努めています。また、医療者教育には附属病院が必要で、本院を含めて4附属病院を設置しています。4附属病院は、各附属病院の下でそれぞれの病院の特色を生かして運営されると共に、各病院間の連携を図り、本学附属病院の社会的使命を果たすよう運営されています。

国公立大学が法人化される中、今後、医学・医療における私立医科大学の存在はますます大きくなるものと思われます。私立医科大学はそれぞれの大学の創立の理念を明確に持っており、その理念の下で特色ある教育、研究、そして複数持っている附属病院を有効に活用し、臨床教育を実践しています。また、国民に適切で良質の医療を提供しています。

学祖・高木兼寛先生は、1881年に医師を育成する

成医会講習所を、その4年後(1885年)に看護婦教育所を開設しました。患者さんを中心とした医療を実践できる医師と看護師を育成したいと考えてのことです。“医師と看護師は協力して患者さんをよく診(看)なさい”という、高木先生の遺訓は、本学の卒業生によって今日まで脈々と継承されてきました。今でこそ多くの医科大学や看護大学・看護専門学校で、患者さん中心の医療を実践することの重要性が教育理念として掲げられていますが、本学は創設以来、130年以上にわたってこの理念を基盤として教育、研究、診療を行ってきたのであります。

新体制は大学の一層の発展を目指して、創立の理念を中心に据えて、中長期計画に則り活動することになります。大学は国際的にも高い評価を受けることができる医科大学を目指して医学教育改革が行われます。また、医学・医療の発展のための研究の活性化は本学が取り組むべき重要課題であると、松藤学長は考えておられ、そのための取り組みが積極的に行われることでしょう。

本院外来棟建築はこれまで、高木専務理事を委員長として「西新橋キャンパス再整備タスクフォース」が編成され、その中で検討されてきました。今後は、より具体的な計画を立てていくことになります。

その他、柏病院の増床計画、第三病院の電子カルテ導入、管理棟建築など、多くの事業が予定されています。本学の理念を実現し、飛躍するために必要と考えられているこれらの事業を具体的な目標として、新体制でその実現に取り組んでいく所存です。

# 新体制のスタートにあたって

東京慈恵会医科大学では、本年4月に松藤千弥新学長が就任し、附属病院の丸毛啓史新病院長との新しい体制がスタートしました。大学、病院ともに、さらなる飛躍が期待される中で、お二人から今後の抱負を語っていただきました。

## 特集1 新学長からの抱負

## 特集2 新附属病院長の抱負

### 特集1

# 新学長からの抱負

今回The JIKEIに新学長としての抱負を述べる機会をいただきました。就任にあたっての私の考えは、学長就任式で告辞として述べましたが、あらためてお伝えしたいと思います。

#### ■三つの柱

東京慈恵会医科大学とは、どんな大学なのでしょうか。本学は、英国留学から帰国した高木兼寛先生が、留学先のセント・トーマス病院医学校で見た患者中心のイギリス医学を日本に根付かせたいという思いから始まりました。患者中心とはあくまでも患者の立場に立ち、「病に苦しむひとを救う」とい

う目的を中心に据えることです。またそのために、病気を、患者やその社会背景と切り離さず、全人的にとらえることが大切です。建学の精神「病気を診ずして 病人を診よ」はそれを表現しています。本学は建学以来130年以上にわたって、患者中心主義と全人的アプローチの精神を受け継ぎ、実践してきました。今では、日本中の医学部が似たような理念を掲げています。高木先生はそれだけ先進的だったのです。さらに本学では「病気を診ずして 病人を診よ」という言葉の力によって、この理念が全教職員、同窓、学生に広く共有されています。職種や立場が違っても、皆が同じ目的を持っていると

いう一体感が本学の特長であり、最大の力だと思っています。

本学が建学以来継続してきたのは、「目の前の患者さんを救うための全人的医療」、「今直ちには治すことができない患者さんを救うための研究」、「共に病に苦しむひとを救ってくれる若い仲間を育てるための教育」です。これら三つの柱は、目的だけでつながっているわけではありません。お互いに支え合い、良い方向に波及効果を及ぼし合います。例えば、よい病院には優れた医療者が集まり、高い教育・研究力を支えます。研究の振興が、大学の教育と診療に与える効果は特に大きいと言えます。そこで私は、三つの柱を一体として向上させることを目標として大学運営にあたりたいと考えています。

#### ■研究

歴代の学長が、教育・研究・診療の三つの柱をバランスよく発展させる努力を続けて来られました。今本学の附属病院は、診療体制の改革と病院の診療機能強化が実を結び、病院関係者の努力もあって多くの分野で高い評価を得ています。また、先進的なカリキュラムと教員の努力は、本学の卒前教育をきわめて高い水準に押し上げました。しかし、本学の研究は、診療や教育と比べると、まだまだ改善の余地があります。私は、三つの柱のうち特に研究の振興を当面の重点課題とし、本学の研究を診療・教育と同等の水準に引き上げたいと考えています。そうすることによって、国際的に認知され、世界中の人々の幸福に貢献できる大学をめざしたいです。

研究によって、病に苦しむ世界中の人々を救うことができます。高木兼寛先生が脚気の予防法を確立した研究が教えるように、その効果は絶大です。



学長 松藤 千弥

近年の科学技術の進歩によって、研究成果を直接患者の診療に活かすまでの道のりは短縮されました。ゲノム科学の発展により、ヒトが生物学の研究対象となり、医学的問題も理詰めで解決できる可能性が高くなっています。研究における本学の役割と可能性は大きくなっているのです。これは、臨床還元をめざす基礎研究でも、患者を対象にした研究でも、病に苦しむひとを救うための研究であれば同様です。私は、本学がこれまで以上に研究によって医学に貢献するための仕組みを整備したいと考えています。まず、卒前教育における研究の要素を増やすと共に、大学院とも連携して研究者を育成します。また、学内の複数の部署が連携して行う研究を促進します。総合医科学研究センターについては、新たにセンター長に就任した大橋十也教授のもとで、研究遂行と研究支援の機能を強化します。さらに、患者を対象にした臨床研究によって信頼できる診療エビデンスを発信するには、附属病院の研究機能の強化が不可欠です。附属病院と連携して、臨床研究の振興とその支援の枠組みを整えていきます。

■教育

大学は本質的に医育機関であり、優れた医療人の育成が本分です。本学の誇りである理念と価値観の共有に基づき、愛情をもって人から学び、人に教える姿勢を堅持したいと思います。医学科も看護学科も新しいカリキュラムへの移行の時期を迎えます。いずれも附属病院の教育機能が増大するような変更ですから、現場の教育担当者を含む全教職員との情報共有が重要です。また、診療参加型臨床実習を大幅に拡充する医学科の教育改革においては、附属病院以外の医療機関にも実習の受け入れをお願いすることになり、教育面で同窓のご協力や地域連携の必要性も増すこととなります。カリキュラムは、文部科学省の施策や資格試験への対応など、外部要因によって変えていかざるを得ないことがあります。しかし、それだけにとらわれず、長期的視野に立った本学らしい教育をしていかなければなりません。今本当に必要なのは、医学・医療をめぐる不確かな未来に対応するための幅広さと、生涯学習能力の涵養なのです。

■附属病院

附属病院は、丸毛啓史病院長を中心に運営されていきます。特に喫緊の課題である新外来棟の建築については基本理念がほぼできあがり、近く日程などの具体的な検討が始まる見込みです。この壮大な事業は、西新橋キャンパス全体にまたがる計画となること、また新外来棟の教育・研究機能が大学の将来にとって非常に重要であることから、栗原敏前理事長のもとで附属病院と大学が協力して進めていきたいと考えています。また、臨床研究の支援体制を中心とした附属病院の研究機能、臨床実習の拡充に対応した教育機能などの振興策においても、附属病院と大学の一層の連携をはかります。

研究・教育・診療に関する私の抱負を述べました。皆様のご支援とご協力をいただきながら、着実に歩みを進めたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

略歴

松藤千弥(まつふじ・せんや)

昭和58年 東京慈恵会医科大学卒業

昭和60年 同大学附属病院内科研修終了

平成元年 同大学大学院修了

栄養学教室助手

平成4年 米国ユタ大学人類遺伝学研究所アソシエイト

平成7年 東京慈恵会医科大学栄養学教室講師

平成8年 同大学生化学講座第2助教授

平成13年 同大学生化学講座第2教授

平成19年 同大学分子生物学講座担当教授

平成25年 同大学学長

学長就任式



新学長に選任された松藤千弥教授(分子生物学講座・昭和58年卒)の学長就任式が、晴天の4月10日午後1時30分より岡村哲夫元学長・栗原敏前学長ご臨席の下、中央講堂において執り行われた。名誉教授・元教授・同窓会長及び同窓諸先生方・父兄会長・教職員・学生が参列した。荘厳な雰囲気の中、初めに橋本和弘医学科長から開会の宣言と新学長の紹介がなされた。

続いて松藤新学長の告辞が述べられた。岡村元学長・栗原前学長の紹介とお二人の大学に対する功績に始まり、①慈恵大学百年記念事業委員会答申について、②本学の設立の理念について、③研究の振興を重点目標として取組

むことについて、④長期的視野に立った本学らしい教育について、⑤病院との連携についてなどの考えが述べられ、「皆様のご指導とご協力を頂きながら、着実に歩みを進めたい」と宣言されると、会場からは拍手喝采の渦が暫く鳴り響いた。

最後に参加者全員が起立して、慈恵の歌「曙満ち来る」を斉唱し学長就任式を終了した。

学長就任式次第  
一、開式  
一、慈恵の歌斉唱  
一、新学長告辞  
一、新学長紹介  
一、開式  
以上

# 新附属病院長の 抱負

附属病院長 丸毛 啓史



現在の附属病院は、森山寛前病院長の力強いリーダーシップのもと、医療の質、経営面で大きく飛躍し、学内外から高い評価を得るに至っています。その礎となった、「法令遵守・医療安全管理の徹底」を最優先とする基本方針を堅持し、これまで以上に医療安全管理体制の充実を図りながら様々な課題に取り組んでいきます。

さて、学校法人慈恵大学は、平成25年度より新たに今後6年間の中期目標・中期計画を設定しました。その重要施策である附属病院外来棟建築計画について、西新橋キャンパス再整備タスクフォースでは、新外来棟の建築計画のみならず、西新橋キャンパス全体がより高い機能を有することを目的に、以下の7項目の基本戦略を策定しました。

1. 東京都心における特定機能病院としての超急性期および災害医療機能の強化
  2. 慈恵の特徴を活かした医療連携の構築
  3. 効果的かつ効率的な診療ユニットの創生
  4. 附属4病院の機能分化と一体的運営の徹底
  5. 慈恵独自の革新的な技術開発と臨床応用の推進
  6. 患者を中心とした質の高い医療の実践
  7. 建学の精神を実践する慈恵人の育成
- 附属病院では、こうした基本戦略を踏まえ、多岐にわたる課題に対して同時並列的な取組を行うために、各副院長の役割分担を明確にしました。

小川副院長：医療安全推進担当

中川副院長：卒前・卒後教育担当

相羽副院長：地域連携・センター化促進担当

井田副院長：病棟・外来運営担当

浅野副院長：病院運営・戦略担当

高橋副院長：看護部統括

そして、医療の質・患者サービスの向上、先進医療の推進、地域医療連携の強化に努め、附属4病院の一層の連携と機能分担、ITを活用した効率的な医療の実現、事業継続計画に基づいた危機管理・支援体制の確立を図っていきたくと考えています。

附属病院では新外来棟建築に向けて、患者さんにより質の高い医療を提供するために、母子センター機能の拡充を含め、救命救急センター、ストロークセンター、腫瘍センターなど、様々な「ゆるやかなセンター化構想」を段階的に推進します。従来の診療部体制を維持しながら、これらの診療部横断的な組織がその機能を十分に発揮するためには、とくに医療スタッフの育成・確保の点で克服すべき課題があります。医師に関しては、基本領域専門医に総合診療医が加えられるなど、これまで以上に総合的な臨床能力の修得が求められることを視野に入れ、後期研修プログラムを充実させる過程で、こうした課題に取り組んでいきたいと考えています。看護師に関しては、幅広い臨床経験を基盤として、各種センター業務を高いレベルで遂行できる認定看護師を積極的に育成していきたいと考えています。そして、多職種が連携した栄養サポートチーム、緩和ケアチームなどの参画により、質の高いチーム医療を推進します。人材育成の具体的な取組として、初期研修医・レジデント、看護師などのト

レーニングコースの充実と、教育センターを中心としたシミュレーション教育施設の有効活用により、医療技術の向上と医療安全教育の充実を図りたいと思います。

一方で、大学附属病院の使命として、先進医療の推進を含め、臨床研究の活性化を図る必要があります。現存の臨床試験支援センターの活動を、治験のみならず、臨床研究の立案の段階から研究者をサポートできるよう大学と連携しながら拡充していきたいと考えています。

患者さんに優しくなれる医療スタッフが多くいる病院とは、医療スタッフが働きやすい環境が整備され、働きたい病院として、働く者から支持される病院だと思っています。モンスターペイシェントやクレームには、医療従事者の安全確保を第一に対応します。また、女性教職員・医師の復職支援を含め、教職員の職場満足度の向上に向けた取組を引き継ぎ、強化したいと思っています。

どうぞ皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 歴史に学ぶ

福井県の永平寺は、曹洞宗の宗祖である道元により寛元2年(1244年)に開山された曹洞宗大本山の寺院で、現貫首は第79世福山締法である。寺では日々の勤めの始まりに、歴代の貫首の名前を読み上げる。貫首を講える儀式ではない。自らの存在を歴史の中に位置づけ、「伝統と継承」を再確認し、初心を忘れることなく、何をすべきか自らに問かける。「歴史に学ぶ」作業を行っているのである。

過日、自衛隊のF15戦闘機が基地に胴体着陸したとの報道があった。幸い人命に関わる事故には至らなかったが、原因は車輪の出し忘れである。極めて初歩的なミスであるが、こうした事故はおおよそ10年の周期で発生している。F15戦闘機は我が国に導入されてから30年以上が経過するが、現在もなお航空自衛隊の主力戦闘機として日本の防空任務を担っている。操縦桿を握れるのは、この分野で心技体を極めた超エリートパイロット、いわゆるトップガンだけである。彼らは防空任務の最前線にあって、万一の事態に備えて急発進、ドッグファイト、急降下・急上昇などの厳しい訓練を繰り返し行っている。こうした訓練では、高度低下により発せられる車輪が出ていないことに対する警告スイッチを切って飛行することがある。煩いからである。本件はこうした状況下で発生したものである。この時、基地の航空管制官は、車輪を出さないうまま着陸態勢に入った戦闘機に気づいていながら、何か理由があつての行動だろうと思っているうちに胴体着陸してしまったというのである。機体には何ら不具合はなかった。二重、三重のミスが重なって生じた事故であるが、驚愕の事故原因に、事故調査委員会のメ

ンバーは言葉を失ったという。しかし、様々な分野のテクノロジー集団で、似たような初歩的なミスによる事故が発生しているのである。

本学附属病院では、平成16年に青戸病院で医療過誤事件を経験した。警察による医療事故の捜査は、通常の刑事事件のそれとは異なる。事故が事件かを判断する最初のステップは、一連の医療行為が定められた手続きを踏まえて行われたか否かである。次に、医療者の人間性を調査する。刑事事件の捜査では真っ先に問われる合法か違法かの判断は、最後の手続きに過ぎないそうである。考えてみれば、専門家の間でも意見が分かれる可能性がある様々な医療行為自体への判断は、裁判での鑑定に任せ、医療行為が正しい手順で行われたか否かを突破口として捜査することは、医療の専門家ではない捜査官の捜査手法として当然の選択ともいえる。こうした捜査手法を念頭に置いたリスク管理の是非については異論もあろうが、医療行為においては、常に法令を遵守し、定められた手続きに則ることの重要性を思い知らされる。

本学ではこの事件以降、医療安全に対して絶え間ない取組を行ってきた。しかし、あらゆる事象がそうであるように、時間の経過とともに衝撃の記憶は薄れる。当事者が去り、そこに働く人も変わる。そして事故は再び起こる。歴史に学び、初心に戻る。安全のための手続きを怠ることなく励行する。こうした地道な取組の他に事故、事件を防ぐ道はない。(本稿は、平成21年度整形外科年報の巻頭言に掲載したものを一部改変した。)

# 腎がんに対する 経皮的凍結療法について



放射線医学講座  
教授 原田 潤太

施設で臨床治験として行われました。その後、2010年に薬事承認、2011年に腎がんを適応とした保険収載がされました。

## 凍結療法の歴史

低温の医学への応用は古く、紀元前2500年のパピルスに「汝、炎症は冷やすべし」と記されており、雪や氷により炎症や痛みの治療に用いられました。19世紀中頃にロンドンの医師Arnottは氷を入れた生理食塩水を潰瘍瘻に灌流させる方法で腫瘍の縮小、痛みや臭いの軽減など臨床症状の改善を得ています。その後、液体窒素を閉鎖回路で還流させるプローブ型の凍結装置が開発され、様々な領域で凍結療法が行われるようになりましたが、凍結範囲の正確な把握ができなかったため腸管穿孔などの合併症をきたし、表在の凍結療法を残して次第に衰退しました。

しかし、最近になって超音波、CT、MRIなど、凍結領域が画像で評価されるようになり、さらに太さ1.47mmと細い凍結針の開発と相まって、体内深部の経皮的凍結療法が安全な治療法として確立されてきました。

## 凍結装置とMRIガイド凍結療法の利点

薬事承認された凍結装置は高圧ガスによるJoule-Thomson効果により凍結と解凍を行う装置です。凍結には300気圧の高圧アルゴンガスを、熱交換により凍結針先端部は-165℃まで冷却されます。解凍には高圧ヘリウムガスを70℃まで加温されます。本装置はガスの切り替えにより凍結と解凍が制御可能であり、約10秒間で-165℃と+54℃の大きな温度変化を得ることができます。

体内深部の経皮的凍結療法を行う場合、正確な凍結領域を把握するために超音波、CT、MRIなどの画像診断装置によるモニタリングが必要となります。凍結療法のモニタリングとしては、従来からその簡便性とリアルタイム性により超音波が用いられています。しかし、超音波では氷結晶の表面しか描出されないため、凍結した腫瘍背側の評価はできません。一方MRIでは、氷結晶のT1・T2緩和時間の短縮効果により、凍結領域は無信号域として明瞭に描出されます。図bに示すように凍結領域と非凍結領域のコントラストは鮮明で

## はじめに

悪性腫瘍の経皮的局所治療には高温で焼灼壊死させる方法や超低温で凍結壊死させる方法などがあります。凍結療法の特徴は、凍結範囲の画像化、凍結による麻酔効果、凍結による免疫反応、などがあります。また、凍結による細胞死は細胞自体の機械的破壊であり変性蛋白は生成されません。

MRIガイドによる経皮的腎がん凍結療法は2001～2002年にかけて慈恵医大柏病院および北海道大学病院の2

あり、正常組織を温存する凍結療法が可能となります。

## 凍結破壊の機序と腎がん凍結療法

凍結による細胞死の機序は、細胞内の氷結晶形成、細胞外の氷結晶形成、微小血管内での血栓形成です。細胞内での氷結晶形成は細胞膜の破壊をきたし、細胞の致死損傷となります。一方、細胞外の氷結晶形成は細胞外の溶質濃度を上昇させ、細胞内外の溶質濃度勾配により細胞内脱水をきたし、細胞は死に至ります。径0.5mm以下の微小血管は血栓により閉塞し、細胞の虚血壊死を来します。また、凍結による免疫反応は凍結免疫と言われ、例えば進行乳癌では主病変の凍結療法により、転移リンパ節の消失が報告されています。

保険収載された腎がん凍結療法の適応は4cm以下の小径腎がんです。凍結療法は局所麻酔下に画像ガイドで1本から複数本の凍結針を経皮的に

腫瘍穿刺し、腎がんのみを標的とした局所治療法です。腎がんの破壊には-20℃以下での凍結が必要であり、腫瘍辺縁より5mm以上大きく凍結することで十分な治療域が得られます。この治療域は術中に任意方向のMR画像を見ながら、15分の凍結を2回繰り返すことで手術は終了します。

## 治療成績

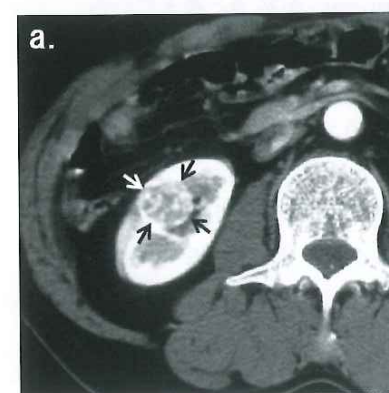
2001年、当院で臨床治験として行った腎がん凍結療法は13例であり、約10年の長期観察ができました。対象の平均年齢は61.8歳、腫瘍径の平均は2.7cmです。13例中10例で1回の治療で腫瘍壊死が得られました。3例で再発腫瘍がみられましたが、摘出術とともに1例に追加の凍結療法が行われ再発腫瘍は消失しました。術後合併症は腎周囲血腫1例、胸水1例を認めましたが、保存的治療で完治しています。10年の長期経過では、凍結壊死部の完全吸収は89%に見られました。また、経

過観察中に凍結部は55%で脂肪に置き換わり、凍結領域内の石灰化が78%に観察されました。治験症例13例のうち大腸がん肝転移で死亡された1例を除き、全例で転移・再発はなく経過しています。

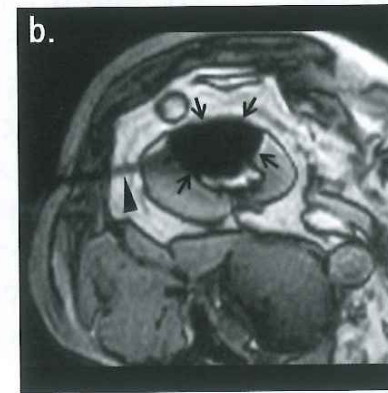
保険収載された2011年以降、柏病院では33例の腎がん凍結療法を行っています。低侵襲性治療法であり、腎機能低下例、片腎症例、術後再発症例、高齢者などの症例を中心に行っております。

## おわりに

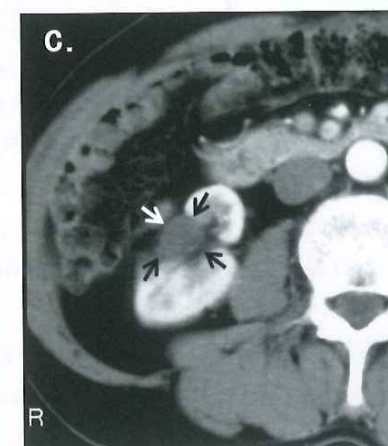
凍結療法にはラジオ波などの焼灼治療と比べ、凍結による組織の変性が少ない、治療中の痛みがない、画像により治療範囲の把握ができる、凍結免疫の可能性があり、など独特の特徴があります。今後、凍結療法は腎がん以外の良性・悪性腫瘍や疼痛緩和などに応用できる治療法になると考えています。



▲図a. 術前CT；  
濃染される右腎がんを認める(矢印)。



▲図b. 凍結中のMRI；  
凍結領域は無信号として描出される(矢印)。凍結針(矢頭)。



▲図c. 凍結療法15か月後のCT；  
凍結壊死した領域は縮小し、再発は認めない(矢印)。

# 本学における臨床教育改革

教学委員長 宇都宮 一典 (糖尿病・代謝・内分泌内科 教授)



平成25年4月から、松藤千弥現学長の後を引き継いで、教学委員長を委嘱された。前教学委員長が確かな見識のもとに強いリーダーシップを発揮され、卒前教育の充実に邁進してこられたことを考えると、その責務に耐えうるか否か、自らの非力に不安を覚えざるをえない。本学の卒前教育は、これまでに幾多の先駆的な改革を重ね、我が国における医学教育のモデルと評価されている。一方、医学教育の国際標準化が喫緊の課題となっている。これは、発展途上国から北米に移住する医師に対して、一定以上の質を確保するために、北米側から提示された条件に端を発している。我が国は独自の教育体制を背景に、高いレベルの医学教育を維持してきた。しかし、国際認証の基準からみて、知識偏重型の教育形態と臨床実習の不足が、大きな問題として指摘されるに至っている。かかる背景から、文部科学省はグローバル化を目指した医学教育改革に対する支援GP (Good Practice) を立ち上げ、一番に本学の「参加型臨床実習のための系統的教育的構築」5年事業が採択されたのである。これは本学にとっても今までにない大規模な改革であり、主眼は臨床実習の拡充、特に本来の参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ、以下CC)の実現にある。そのためには、多くの臨床教員の協力をえなければならない。私が教学委員長を拝命した所以はここにあり、その責任を重く受け止めている。

昨年の1年間を、カリキュラムの骨子作成に費

やした。本学では、すでに低学年で医療現場を経験する実習が6週間組まれているので、4年次以降の実習形態を改変・拡充し、真のCCを実現するために必要な知識・技能をどの段階で習得させるか、逆算していかなければならない。また、CCのコアとなる診療科と教育現場(分院や関連病院)の整備も急がれる。事業申請時に、座講を縮小し、4年次後半から5年次まで1週間単位で全診療科を回る見学型実習を28週設け、この中に講義形式の統合型集合教育を織り込むこと、5年次後半から6年次までのほぼ1年間、1ヵ月単位でローテートするCCを実施することが決まっていた。そこで、座講を減らすだけでなく、臨床現場を経験した後に聴講した方が効率的な科目やチュートリアルを見学型実習中の集合教育に移すこと、統合型集合教育では症例を中心に、病態から治療まで横断的な教育形態を構築することにした。CCでは必須と選択科あわせ10診療科を回り、学生は研修医とペアとなって診療に参加するが、屋根瓦方式確立のために指導医、レジデント、研修医を対象としたFD (Faculty Development) が必須と考えている。

今回の事業にあたって、キングス大学の状況を調査したが、英国では国家試験がないなど事情が異なっているものの、入学選考法や学生の主体性を重視する姿勢は見習うべきものがある。教育改革に失敗は許されない。一方、課題は山積している。については全学的なご支援を、心からお願いするものである。

## 研究余話

### 磁力で回収できる放射性セシウム除染剤の開発 【予防医学に貢献!! 本学発・世界初の異分野融合技術】



臨床医学研究所  
准教授 並木 禎尚

強力なセシウム吸着材であるフェロシアン化合物を磁性粒子に被覆することにより、原発事故で拡散した放射性セシウムを瞬時に回収する技術を開発しました【特許4932054号】。

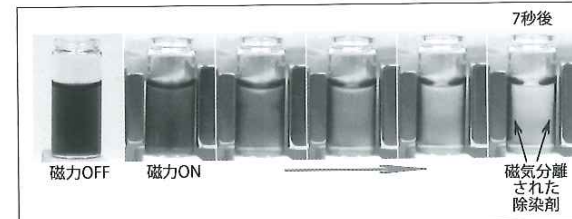
東北から関東地方にかけてゴミ焼却飛灰の高濃度放射性セシウムが問題となっております。8000ベクレル/kgを超える飛灰は、埋め立て処分できないため焼却場に山積み保管している現状があります。原発事故に由来する放射性物質のうち、ヨード131とセシウム137は発生量・拡散性・蓄積性などから、発がんの原因になりやすいことが米国立衛生研究所により指摘されております(注1)。特に、セシウム137(半減期:30年)は10年経過しても80%の放射能が残り、3か月で0.04%まで減衰するヨード131(半減期:8日)とは大きく異なります。さらに、セシウムは土壌-植物間で循環するため、剪定枝などの焼却により飛灰中のセシウム濃度が大幅に上昇することが知られています。

このような背景から「飛灰の放射性セシウムを迅速に低減する技術」が望まれております。代表的なフェロシアン化合物であるプルシアンブルーは安全性が高く、ゼオライトで問題となる他のイオンの混在による吸着妨害を受けないため、内部被ばくに対する治療薬(Radiogardase®)として用いられております。一方、ナノサイジング(微細化)により吸着材の表面積は増大するため、大量のセシウムを短時間

で捕捉できるメリットが生まれますが、細くなるほど分散した吸着材の回収は難しくなります。

並木らは、「薬剤の挙動を磁力で制御できるナノ粒子」を用いて、副作用のない強力な治療法、即ち、薬を患部に強制送達できる磁気誘導型ドラッグデリバリーシステムを開発してきました【産業技術研究助成事業(NEDO)、最先端・次世代研究開発支援プログラム(内閣府)】。その過程で築き上げた「磁性微粒子への薬剤担持技術」を応用、磁性粒子にプルシアンブルーを結合させた「磁性除染剤」を作製しました。接着材料を介し磁性粒子表面に吸着材を結合する独自の発明技術を用いたため、磁性微粒子、吸着材の無限の組み合わせが可能で、性能向上・大量生産・コストダウンへの対応が容易です。

本技術により、放射能が濃縮した使用済吸着材の遠隔無人操作を実現でき、現場作業員の被曝防止にも大きく貢献します。現在、スーパーゼネコンを含む複数の大手企業とともに実用化研究を推進、東北地方での高濃度汚染飛灰を用いた実証試験を開始しており、大変良好な成績が得られております(注2)。今後も、医学の枠に囚われない分野横断的研究を推進、産学連携へ発展させ、微力ながら社会貢献に努めてまいります。



▲磁性を付与したナノサイズのプルシアンブルーが両サイドに対向配置した磁石で回収される様子。

(注1) <http://www.cancer.gov/cancertopics/factsheet/Risk/nuclear-power-accidents#ques2>  
(注2) 環境省 平成25年度除染技術実証事業 採択(平成25年6月)



本研究は、The 11th International Conference on Ferrites (第11回国際フェライト会議)においてNew Product & Novel Technology Award (新製品・新技術賞)を受賞しました(平成25年4月)。本賞は、磁性材料に関する新製品または実用化が見込まれる新技術のうち、特に優れた研究発表に対し授与されるものです。

# 「看護学教育雑感」 —感じとり応答する能力を伸ばす—



看護学科  
学科長  
櫻井 美代子

ヒューマン・ケアリングである看護の実践者には、様々な現象を論理的・科学的に分析する能力と、対人関係上の課題や要求に対処するためのコミュニケーション能力、そして相手の気持ちや情動を敏感に感じとり、自分の考えや行動を導く能力が求められている。特に臨床の看護師には、不安や苦痛を抱えている患者さん一人ひとりの心のひだを読み取る洞察力と豊かな感性を備えていることが必要である。一方、医療職を目指して入学してくる学生達は、携帯電話やスマートフォンなどインターネット上での情報交換が当たり前の時代に育っているため、対面で相手の顔を見ながら会話をすることや、集団行動の中で自分と価値観の異なる人を受け入れて関係性を築くのが苦手であると感じている学生が確実に増えている。そのため、看護学教育だけではなく対人関係の専門職業人を育成する多くの教育機関では、コミュニケーションの教育の充実に向けたカリキュラムの検討が行われている。

看護学科のカリキュラムも日本語表現法をはじめとする関連科目と演習を多く取り入れられている。4年間通して位置づけられている看護総合演習では、少人数によるグループディスカッションや医療専門職者へのインタビュー、模擬患者(S.P.)やロールプレイを用いてコミュニケーションの理論と基礎編を学んでいる。さらに臨床実習で価値観の異なる患者さんとの対一の関わりを通して応用編を体験しながらコミュニケーション能力を修得している。

かつての教え子の中に、いつも自信の無い小さな声でボソボソと話をするタイプで、コミュニケーションが苦手な学生がいた。彼女が臨床実習施設で受け持ったAさんは大変気難しい方で、学生がリハビリ訓練に誘っても「行かない、ほっといてくれ」と拒否していた。それでも毎日ベッドサイドに立ち声をかけたが、Aさんは向に声してくれない。ある日、学生が「Aさんと一緒に紫陽花を見に行きたいな」とつぶやいた時、「じゃあ、あなたのために行ってやるよ」と車椅子に移り訓練室に向かってくれたことがあった。何がきっかけであったのか定かではないが、この時の言葉掛け

がAさんの自尊心を揺り動かしたのかもしれない。その学生は、卒業して数年経った今でも対人コミュニケーションはあまり得意ではないと思うが、患者さんの気持ちや、医療者には患者さんが心の奥に秘めている苦悩や反応を感じとることができ、そしてそれに応えてようと自分自身の心がときめいて発する言葉であるからこそ、相手の心に伝わるのではないかとと思う。対人コミュニケーションは、心と心のキャッチボールであるとも言われる所以であろう。これからも日々、学生たちと心のキャッチボールをしていきたい。

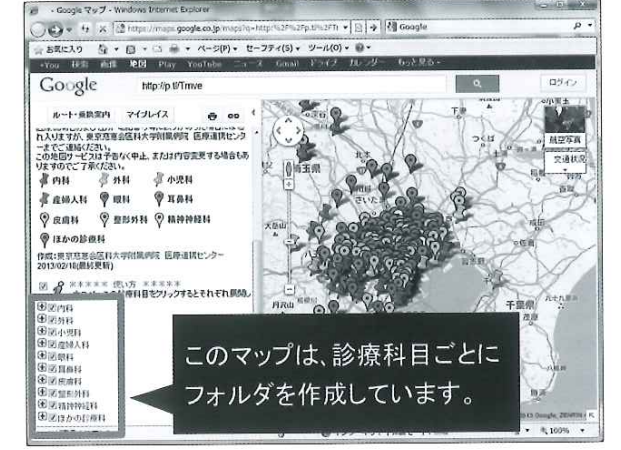
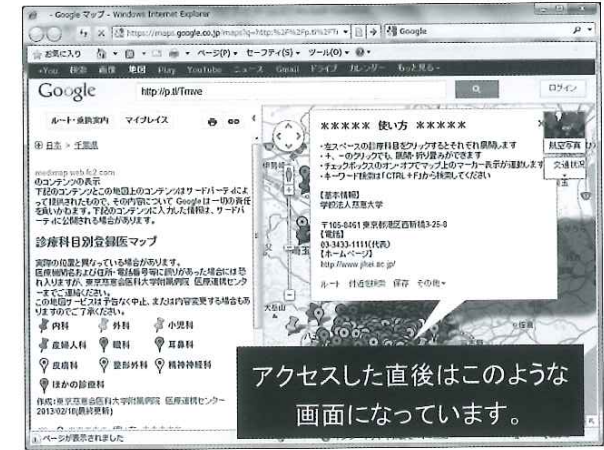
## 患者支援・医療連携センター「同窓開業医マップ」運用開始

患者支援・医療連携センター センター長 常喜 達裕



医療連携で肝心なことは、患者にとって「医療の質」が担保されることである。では、「医療の質」とは如何なるものなのであろうか。突き詰めるとそれは、「科学的視点」「人道的視点」「コミュニケーション能力」の三点に集約できるのではないと思う。「科学的視点」とは、診断や手術、治療薬選択などの標準化であり、これらを進める手段として種々のクリティカルパス(5大がん+前立腺がんパス、脳卒中パス、大腿骨頸部骨折パスなど)が導入され治療の平準化が試みられている。クリティカルパスの本来の目的は治療の均一化ではなく各患者における最適な治療(ベストプラクティス)を求めたものであるにもかかわらず、症例の個別性を理由に導入がうまく進まない。この問題を解決しクリティカルパスの導入を加速させるためには、共通の治療理念と専門医が患者の一生を視野に入れた治療計画を連携医師に提示することによる双方の安心感が肝要である。我々東京慈恵会医科大学には、建学の精神である「病気を診ずして 病人を診よ」の共有理念がある。この理念に基づいて、本学では、医学的要因以外の心理的・社会的・経済的な環境要因をも的確に判断する「人道的視点」を持った医師が生まれ、また、如何なる患者にも敬意を払い、円滑な人間関係を患者および連携医師と築ける高い「コミュニケーション能力」を持った医師を全国へ輩出し続けており、良好な医療連携を構築しやすい環境にある。

平成19年に発足した患者支援・医療連携センターの目標は、本学を卒業し同じ理念を共有している「同窓医師との強固な医療連携構築」を基盤として前方後方連携を広げ循環型医療を実現することである。まず志を同じくする同窓医師と良好な医療連携が構築できれば、「医療の質」を落とすことなく循環型の医療体系を構築することが可能であると考えている。しかしながら、これまでは同窓医師の開業場所を容易に検索する方法がなく医療連携構築の障害となっていた。これを解消するための検索用デジタルマップ作成は我々の悲願であった。平成24年11月、「同窓開業医マップ」作成のために全国同窓(昭30卒以降)で開業をされている医師約1800名に対して開業住所、標榜科、5大がんパスの受け入れ可否などの様々な情報提供を含むアンケート調査を行った。約51%の同窓医からの回答を得て、この度、「同窓開業医マップ」が完成し、平成25年4月より4附属病院で運用している。現在、同窓医師にも同窓会ホームページから閲覧が可能となるよう準備中である。このマップが、4附属病院と同窓開業医を繋ぎ、未だ全国のいずれの基幹病院でも運用が難しい5大がんパスや脳卒中パスが有機的に動き出す一歩になることを期待している。また、このマップが活用され同窓同士が横方向で繋がり蜘蛛の巣のような医療連携ネットワークが構築されることを切に望んでいる。





## 看護学科校舎増・改築について

東京慈恵会医科大学医学部看護学科は、平成4年度の開設時から入学定員30名の少人数教育を行なってきました。その後、看護教育大学化の進展に伴い、平成19年度に定員を40名に増員し、大卒看護師によるマンパワーの充実に力を入れてきました。さらに医療現場からは、年々高まる看護の専門性と健康ニーズの多様性に対応できる看護実践者の充実が求められています。本学では、これからの看護の質向上に資するため優れた看護実践者の育成を志向し、社会に貢献することが大学の使命であると考え、2年前より看護学科の入学定員増(60名)について検討を行なってきました。平成24年6月に学校教育法並びに学校教育法施行令に基づき「大学収容定員増加に係る学則変更」の申請を行い、平成24年7月に保助看法施行令に基づき「入学定員」、「校舎各室の用途変更並びに面積の変更」について東京都を通じて文部科学省へ申請し、大学収容定員増は9月5日付で、入学定員増は10月31日付で文部科学省から認可が下りました。工事は平成24年3月から始まり、平成25年1月末に竣工しました。

増改築した新校舎の概要をご紹介します。

1階は、300人収容可能な大講堂を増設しました。平面フロアは、180席の椅子を配置可能で、後部座席はステージやスクリーンが見やすい電動式収納の階段座席(定員120席)になっています。セレモニーや公開講座、オープンキャンパス等に多くの方々から来校する場合でも対応可能となっています。西面ロータリー側が全面ガラス張り、前面ステージ左脇には西新橋校F棟の古い図柄をモデルと



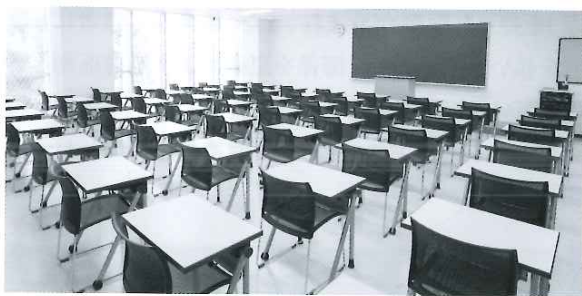
▲増改築後の校舎外観

したステンドグラスの装飾が施され、本学の歴史的・学術的な重みを醸し出す演出となっています。また、トイレには、パウダールームが男女ともに設置され、自然に身だしなみに気遣う事ができます。1階講堂の使用は、国領キャンパス(看護学科・医学科)の学事予定が優先となりますが、事前に空き状況をご確認の上ご利用いただければと思います。

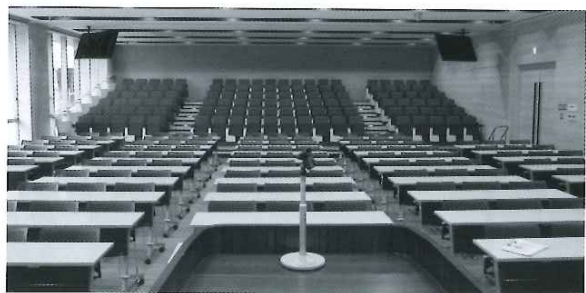
2階は、実習室のフロアで、実習室(2部屋)と臨床講堂、教材室が設置されました。現行の実習室を改修して第1実習室とし、更に第2実習室を新設し各領域が利用しやすくなりました。また、旧大教室をシミュレーション教育が行える臨床講堂に改装しました。

3階は、学生のフロアで、学生ホール、講義室(3部屋)、演習室(3部屋)、ロッカー室(3部屋)等が設置されました。学生ホールには給湯設備や自動販売機を設置し、東面(第三病院手術棟側)がガラス張りの明るい雰囲気、ハイカウンターと椅子14席を設置し、フロアには約40名が着席できる勾玉のテーブルと椅子を設置、狛江通り側の壁側にコンピュータも利用できる席を7席設置し、リフレッシュできる空間になりました。講義室は70名収容できる広さとなり、講義室2と講義室3の2部屋については、スタック式の机と軽量の椅子を設置し教室内でのグループワークも簡単に移動し易いものとなりました。また、演習室の1部屋にビデオ教材やe-learningを活用できる学習室も整備しました。

一新された環境の中で、より良い教育と学びの場を提供し、社会に貢献できる看護職者を多く輩出していけるよう教職員一丸となって努力していききたいと思います。



▲講義室



▲大講堂



▲学生ホール

## The JIKEI NEWS FLASH

学内ニュース

## 新任教授紹介

平成25年4月1日公示

①講座名・氏名 病理学講座 池上 雅博  
 ②略歴 昭和56年 本学卒業  
 ＊ 本学第一病理学教室助手  
 平成元年 本学第一病理学教室講師  
 平成8年 本学附属病院 病院病理部出向 診療医員  
 平成10年 4月 同上出向解除  
 平成14年 本学病理学講座助教授  
 平成19年 本学附属病院 病院病理部診療部長、4病院総括責任者  
 島根県 松江市  
 ③出身地 学生時代はバレーボール部、食べ歩き、読書  
 ④趣味・特技 病理学講座に入局以来、消化管病理学を専門に研究してまいりました。現在病理医は、学内外ともに非常に少ない状態です。今後10～20年後の慈恵の病理を支える人材を育成していくことが、在任期間中最大の命題と考えております。



①講座名・氏名 耳鼻咽喉科学講座 小島 博己  
 ②略歴 昭和62年本学卒業、平成元年本学耳鼻咽喉科学講座助手、平成7年～9年米国ハーバード大学ダナ・ファバー癌研究所の留学を経て、平成11年講師、平成18年助教授(平成19年准教授)。  
 東京都  
 ③出身地 車、オーディオ  
 ④趣味・特技 耳鼻咽喉科は私の専門とする耳科学の他、鼻科学、頭頸部外科学、口腔・咽頭学など多岐にわたります。教職員が一致団結して、全ての領域で最先端の医療を提供できるように教室を作りたいと思います。ご指導とご支援をお願い申し上げます。



①講座名・氏名 脳神経外科学講座 村山 雄一  
 ②略歴 平成元年 本学卒業  
 平成3年 同脳神経外科学教室講座助手  
 平成7年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)脳血管内治療部 客員研究員  
 平成8年 同助教授  
 平成13年 同准教授  
 平成14年 東京慈恵会医科大学脳神経外科助手  
 平成15年 同講師 脳血管内治療部 診療部長  
 平成16年 同特任教授、UCLA教授(兼務)  
 平成16年 4月・平成21年3月:早稲田大学理工学総合研究センター客員教授  
 平成22年 東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座 教授 (定員外)  
 東京都  
 ③出身地 スキー、自転車、写真  
 ④趣味・特技 脳卒中の包括的治療を目指し、脳卒中センターの構築を救急医学、神経内科、リハビリテーション科と連携し取り組んで参ります。慈恵には将来有望な若手が数多くおりますので国際的に通用する医師を育成することが目標です。宜しくご指導ご鞭撻お願い致します。



①講座名・氏名 内科学講座(腎臓・高血圧内科) 横尾 隆  
 ②略歴 平成3年本学卒業、平成6年英国UCL医科大学内科学、平成8年博士(医学)取得、平成19年本学DNA医学研究所プロジェクト研究部腎臓再生研究室室長(兼務)、平成22年本学腎臓・高血圧内科講師。  
 東京都  
 ③出身地 ジョギング、ヨット  
 ④趣味・特技 これまで築き上げられてきた当科の伝統を継承しつつ、新たなブランド力強化の為に若い力を結集して、診療・研究・教育をバランスよく推進していきたいと思っております。どうぞご指導、ご支援のほどよろしくお願い致します。



# 医学科90名、看護学科40名が卒業

## 第88回医学科・第18回看護学科卒業式

平成25年3月8日(金)午後1時30分から中央講堂に於いて東京慈恵会医科大学医学部第88回医学科・第18回看護学科卒業式が挙行された。卒業生は医学科90名、看護学科40名であった。当日は、卒業式に相応しい晴天の下、お昼過ぎから父兄が詰め掛け、会場は開式10分前には教職員、同窓、学生、父兄の皆さんで満席となった。音楽部の管弦楽団が「威風堂々」を演奏する中、栗原学長を先頭に羽野医学科長、櫻井看護学科長、名誉教授、高橋紀久雄同窓会長、池田幸市父兄会長が入場され厳粛に卒業式が開始された。国歌斉唱の後に栗原学長から卒業生一人ひとりに卒業証書(学位記)が授与され、会場から温かい拍手が送られた。続いて成績最優秀者に贈られる慈大賞が栗原学長から杉山佳史君(医学科)と柴山渚さん(看護学科)に授与された。また、同窓会賞が高橋同窓会長から田村賢太郎君(医学科)と細貝知世さん(看護学科)に、父兄会賞が池田父兄会長から萬春花さん(医学科)に授与され、更に日本私立看護系大学協会会長賞が、柴山渚さん(看護学科)に授与された。

羽野医学科長と櫻井看護学科長から平成24年度学事報告が行われた後に、栗原学長から式辞が述べられた。八代学長の阿部正和先生から預かった卒業生へのメッセージが紹介され、「患者さんと接した時、いつも患者さんの立場に立って患者さんを優先的に考えることが重要です」と読み上げられた。また、自らの生理学研究を通して、一つの道を歩みとおすことができた喜びから、「たとえ苦しい時があっても、自らに求めるという気概を持って壁を乗り越えて、それ

ぞれの道を歩み続けて欲しい。本学で学んだことに誇りを持って、それぞれの夢に挑戦し、前途洋々として実りの多いものであることを心から祈ります」と結ばれた。会場が感動の渦につつまれる中で、卒業生を代表して医学科の杉山佳史君から「真摯な気持ちを持って、知識や技術、人間性、教養を高め、一人ひとりの患者、ひいては世界中の人々の健康のために邁進します」と決意に満ちた謝辞と、看護学科の柴山渚さんから「患者さんと関わるその瞬間を大切に、心に寄り添わせて頂くとする努力を怠らず、日々最良の看護を模索し続けていきます」と誓う謝辞が述べられた。

続いて、平成24年度に最も充実した活動を行ったクラブに贈られる樋口一成記念杯について学生代表の高橋潤次君から選考経過と受賞クラブが発表され、運動部門(馬術部)と文化部門(音楽部)に記念の樋口杯が授与された。終わりに全員が慈恵の歌「曙満ち来る」を斉唱し、厳かなうちに卒業式は終了した。



# 第107回医師国家試験・第102回看護師国家試験・第99回保健師国家試験

第107回医師国家試験の結果が、去る3月19日に発表されました。合格者の総数は、8,569名で、合格率は89.8%でした。平成25年3月本学を卒業した新卒者90名と既卒者5名が試験に臨み、新卒者89名・既卒者2名が合格しました。この度の試験において

本学合格率は95.8%で国公立大学80校中第10位、私立大学29校中7位となりました。

また、第102回看護師国家試験および第99回保健師国家試験の結果も3月25日に発表されました。各校の合格状況は下表の通りです。

■第107回医師国家試験合格状況

区分	校数	新卒			既卒			合計		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本学	—	90名 (101)	89名 (98)	98.9% (97.0)	5名 (3)	2名 (1)	40.0% (33.3)	95名 (104)	91名 (99)	95.8% (95.2)
国立	43	4,137名 (4,087)	3,883名 (3,854)	93.9% (94.3)	420名 (438)	248名 (239)	59.0% (54.6)	4,557名 (4,525)	4,131名 (4,093)	90.7% (90.5)
公立	8	652名 (658)	628名 (626)	96.3% (95.1)	43名 (58)	25名 (46)	58.1% (79.3)	695名 (716)	653名 (672)	94.0% (93.9)
私立	29	2,916名 (2,813)	2,677名 (2,630)	91.8% (93.5)	309名 (393)	191名 (263)	61.8% (66.9)	3,225名 (3,206)	2,868名 (2,893)	88.9% (90.2)
その他	—	37名 (32)	17名 (19)	45.9% (59.4)	55名 (42)	27名 (11)	49.1% (26.2)	92名 (74)	44名 (30)	47.8% (40.5)
合計	80	7,742名 (7,590)	7,205名 (7,129)	93.1% (93.9)	827名 (931)	491名 (559)	59.4% (60.0)	8,569名 (8,521)	7,696名 (7,688)	89.8% (90.2)

■第102回看護師国家試験合格状況

区分	校数	新卒			既卒			合計		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
慈恵看護専門学校	—	79	79	100.0%	1	1	100.0%	80	80	100.0%
第三者看護専門学校	—	50	50	100.0%	0	0	—	50	50	100.0%
柏看護専門学校	—	70	69	98.6%	1	1	100.0%	71	70	98.6%
医学部看護学科	—	40	39	97.5%	0	0	—	40	39	97.5%
計	—	239	237	99.2%	2	2	100.0%	241	239	99.2%
全国	—	51,458	48,413	94.1%	5,072	1,811	35.7%	56,530	50,224	88.8%

※不合格者 柏看護専門学校1名 医学部看護学科1名

■第99回保健師国家試験合格状況

区分	校数	新卒			既卒			合計		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
医学部看護学科	—	40	40	100.0%	0	0	—	40	40	100.0%
全国	—	15,136	14,751	97.5%	1,284	1,013	78.9%	16,420	15,764	96.0%

## 平成26年度 医学科学生募集要項

オープンキャンパス(開催日程)

医学科(西新橋キャンパス)

- 8/16(金) 中央講堂
- 8/17(土) 中央講堂
- 9/28(土) 大学1号館講堂

※詳しくはホームページにてご確認ください。

募集人員	110名(東京都地域推薦枠入試5名を含む)	
出願期間	平成26年1月6日(月)～平成26年1月29日(水)必着	
一次試験	試験日	平成26年2月5日(水)
	試験科目	理科(物理、化学、生物の中から2科目選択)/数学/英語
	試験会場	五反田TOCビル本館
	合格発表日	平成26年2月12日(水)午後3時
二次試験	試験日	平成26年2月15日(土)・16日(日)のうち希望日
	試験科目	面接
	試験会場	本学・西新橋キャンパス
合格発表日	平成26年2月18日(火)午後3時	
入学手続	第1段階(入学金)	平成26年3月3日(月)午後3時まで
締切日	第2段階(手続資料) (授業料)	平成26年3月12日(水)午後3時まで
納入金返還手続締切日		平成26年3月31日(月)午後3時まで



## 平成26年度 看護学科学生募集要項

オープンキャンパス(開催日程)

看護学科(国領キャンパス)

- 7/13(土)
- 7/14(日)
- 11/2(土) ミニオープンキャンパス

※詳しくはホームページにてご確認ください。

募集人員	60名	
出願期間	平成26年1月6日(月)～平成26年1月29日(水)必着	
一次試験	試験日	平成26年2月10日(月)
	試験科目	理科(化学、生物の中から1科目選択)/国語/数学/英語
	試験会場	本学・国領キャンパス
	合格発表日	平成26年2月12日(水)午後1時
二次試験	試験日	平成26年2月13日(木)
	試験科目	面接
	試験会場	本学・国領キャンパス
合格発表日	平成26年2月15日(土)午後1時	
入学手続締切日	平成26年2月21日(金)正午まで	
納入金返還手続締切日	平成26年3月31日(月)午後3時まで	



## 医学科生112名、看護学科生60名が誕生

### 平成25年度医学部医学科・看護学科入学式

雲ひとつない晴天に恵まれ平成25年4月4日(木)午後2時から西新橋校中央講堂において医学部医学科・医学部看護学科の入学式が厳粛に執り行われた。新入生とご家族、教職員、在校生が参列した満席の会場に、音楽部管弦楽団が奏でる「威風堂々」とともに松藤千弥学長を先頭に、栗原敏理事長、橋本和弘医学科長、櫻井美代子看護学科長、名誉教授、同窓会長が入場し、開会が宣せられた。国歌斉唱のあと、医学科生112名、次いで看護学科生60名の氏名が高らかに読み上げられ、入学生に対して松藤学長が「入学を許可します」と宣言した。

次いで医学科入学生を代表して川本有沙さんが「病気を診ずして 病人を診よ」という学祖の言葉は時代を超えて医療のあるべき姿を示している。患者さんやご家族を支え、寄り添っていける立派な医師になりたいと述べ、東京慈恵会医科大学の学生としての自覚と誇りを持って日々精進することを宣誓した。

続いて看護学科入学生を代表して島村実希さんが、今後医療はさらに高度化していくことが予測され、知識と技術を身に付けることはもちろん大切であるが、「病気を診ずして 病人を診よ」という建学の精神を噛み締め、患者さんの心の痛みを第一に考えることのできる医療従事者になりたい。そのた

めにどんな困難にもめげず努力し続けると宣誓した。

続いて入学生および在校生に対して松藤学長より、「皆さんは慈恵の宝物です。年を経るごとに、ここにいる何人かは大学を去ることになるが、次世代の慈恵医大を進化させつつも、その本質は変わらない。あたかも世代を超えて遺伝子を伝える生命体のように。慈恵医大に誇りを持ち、お互いに信頼して、共に共通の目的に向かって進みましょう」と告辞された。次いで栗原理事長より、「本学に早く慣れ、充実した学生生活を送り、日本の医療・医学の担い手として成長していけることを心から祈念する」と祝辞を述べられた。

次いで、入学生を代表して医学科・澁田恭平君と看護学科・手塚晴美さんに記念品として「大学のペナント」、「学祖高木兼寛先生の記念フォトフレーム」、「クラッチバック」そして父兄会の援助を得て準備された「慈恵の歌 曙満ち来る」が松藤学長から手渡された。最後に参加者全員が起立して、「曙満ち来る」を斉唱し入学式を終了した。



## 戸松義晴氏による講演「仏教の死生観—自分らしく生き、自分らしく逝く—」

### 第1258回成医会例会開催

成医会運営委員長  
小川 武希

戸松義晴氏は、全日本仏教会事務総長、日本宗教連盟事務局長などを歴任され現在、浄土宗総合研究所主任研究員として国際的にも活動されている。

氏の所属する心光院は増上寺の塔頭(たちゅう)で、1598年に増上寺山内に建立され、氏は五十世の御住職にあたる。

本学は毎年10月28日に開催される解剖慰霊祭を増上寺に、お願いしている。

1903年(明治36年)、高木兼寛先生は学生の品性、品格を涵養する目的で、当時の名僧高德から講義を拝聴する「明德会」を創始した。今回の例会は、110年を経た現在に、この精神を想起しようという主旨で企画された。

最初に、若き高木兼寛先生が紹介された。氏の解釈では、本学の建学の精神は、患者の痛みを共感できる『医の心』を持つ医師の養成で、仏教の目指すところと同じである。

日本の医療の原形は、聖徳太子が建立した四天王寺四箇院(しかいん:敬田院、施薬院、療病院、悲田院)にある。仏教における死生観の基本として「縁起」「四苦(生・老・病・死)」「三法印:諸行無常、諸行無我(すべての存在に絶対的実体はない)、涅槃寂靜(一切の執着・苦から解放された覚り)」の三つの要素がある。

縁起とは、全てのものは関係性の中に存在していることを意味する。「おかげさまで」という日本語は、この象徴的な表現であり、これを外国語に訳すことはできないという。

現代の死の形態は、社会的な死(孤独死・ひきこ

もり)、精神的な死(認知症)、霊的な死(自死年慮)、肉体的な死、の四つに分類される。

医療を含む社会の複雑化の結果、困難な事例が増加している。そして、現在は「生と死の分業化」から統合的ケアの時代に入っている。

講演には、二つの動画が組まれていた。一つは、癌患者をもつ家族と医師の対話の場面である。閉ざされた患者家族の心を真摯に聞く医師\*が映し出されていた。(\*この医師が本学卒の小澤竹俊君(昭62卒)であることは、戸松氏も御存知なかった)。もう一つは台湾の仏教徒により1986年に設立された慈濟基金会の主催する、医学生への解剖実習の光景である。医学生が献体された方の家族と共に「お別れ会」に出席することから始まる。家族を訪ね、献体された故人の思いを聞く。解剖台の前に故人の写真、思いが掲示される。学生は、ご遺体を整え納棺し、火葬、納骨にも参列する。そして家族の前で、故人の思いを受け、人間的な医師になることを誓う。

最後に、ストレスの多い医療の現場で医療者自身が倒れないためには、つらいことこそ一人で抱え込まない。悩み、苦しみがあるのが人生であり、これを共有すること。自分の気持ちと正直に向き合う。過去や未来にとらわれず、今この瞬間に集中すること。即ち、「一大事と申すは今日ただ今の心なり」(正受老人の言葉)と念ずること。そして、祈ることを通じて自然と心と体の調和を保ち、自分らしく、自然に生きる。平たく言うと「いい加減に生きること」が大切だと締めくくられた。心身に沁みわたる貴重な講話は深く印象に残った。



▲講演者の戸松義晴氏

## 高規格救急車贈呈式挙行

この度ユニテッドオーシャングループ ラムスコポーレーション株式会社 代表取締役 ヴィパン クマール シャルマ様より本学に対し高規格救急車「トヨタ ハイメディック」をご寄贈いただくこととなり、平成25年3月21日(木曜日/大安)午前11時30分から本院中央棟前に於いて、ヴィパン シャルマ様にご臨席のもと、本学からは栗原理事長、高木専務理事、森山附属病院長、小川救急部診療部長、高橋看護部長、加藤総務部長、植松事務部長が参列した中で、高規格救急車贈呈式が挙行されました。

ヴィパン シャルマ様は、これまでも本学の4病院に車椅子を100台、また本院外来棟用としてワインカラーの車椅子45台、リハビリテーション用の足こぎ車椅子5台をご寄贈されております。

その経緯は、ご子息様が本院にご入院されていた際に、お年寄りの方が歩いている姿や車椅子が大分傷んでいるのをご覧になって、是非にこの思いからご寄贈いただいたものであります。またこの度の高規格救急車のご寄贈は、本学の救急医療並びに救急医学の発展のために、という尊いお志により行われたものであります。

式典の当日は、ヴィパン シャルマ様のお心を表すかのように澄み切った青空に恵まれました。高木専務理事の司会によりヴィパン シャルマ様のご紹介をもって開会し、ヴィパン シャルマ様よりご挨拶をいただきました。そのご挨拶は、寄贈にあたり損得を顧みない、謙虚かつ崇高な志が語られ、出席者一同深



▲ヴィパン シャルマ様より、栗原理事長へマスターキーの贈呈

い感銘を受けると同時に、その大いなる期待に応えていく責任を感じるものであります。そしてマスターキー受贈の後、栗原理事長からヴィパン シャルマ様へ感謝状の贈呈を行い、謝辞が述べられました。引き続き、ヴィパン シャルマ様、栗原理事長、森山附属病院長、小川救急部診療部長、高橋看護部長により、花の添えられたテープにむけ、テープカットが執り行われると、贈呈式の雰囲気も最高潮に達し、本学の救急医療、救急医学の発展を表すような晴れやかさに包まれました。

閉会後は、「東京慈恵会医科大学附属病院」と「UNITED OCEAN GROUP ラムスコポーレーション」のロゴマークが飾られた真新しく、そして多くの機能が盛り込まれた高規格救急車をご覧になりながら、記念撮影などが行われ、和やかな雰囲気の中、散会となりました。

(所属・役職につきましては、開催時のものを記載しています)



▲左から 加藤総務部長、小川救急部診療部長、栗原理事長、ヴィパン シャルマ様、高木専務理事、森山附属病院長、高橋看護部長、植松事務部長

## ヴィパン クマール シャルマ様のご紹介

ヴィパン クマール シャルマ様は、インドのご出身で、日本において創業され、現在はご家族様と日本に居住されております。シャルマ様の創業された、ユニテッドオーシャングループは、ユニテッドオーシャンエンタープライズ(株)とラムスコポーレーション(株)を傘下におく、海運会社です。同グループは、大型船舶を50隻保有し、日本郵船がトヨタやホンダ、日産、マツダなどからアメリカなどに向けて輸出する自動車の約70%を請け負っています。このほか日本向けと海外への石炭、鉄、セメント、鉄鉱石、木材、穀物や紙の原料となるウッドチップなども輸送しております。



## 高規格救急車について

高規格救急車は、通信機器や電気的除細動、静脈路確保、高度な器具を用いた気道確保および薬剤の投与など、救急救命処置を適切に行うために必要な構造設備を有しており、本邦における救急医療の最先端を担う車両です。また患者室は十分な活動スペースが確保され、安定した姿勢で救急処置が行なえるよう、一般的な人の身長を超える室内高を有するとともに、振動を吸収し傷病者の負担を軽減する防振機能付のスト

レッチャー架台や十分な光量を供給するライト、様々な機器類の使用に必要な電力供給装置などが装備されており、医療者と患者双方への配慮に優れた車両です。

本学では、昨年8月に導入された一般救急車と合わせ、患者搬送機能に加えて、災害発生時においても必要に応じた医療支援の備えが強化されました。



▲高規格救急車内

# 生涯学習

生涯学習センターをはじめとする各機関では、生涯学習のためにセミナーやフォーラムなどさまざまな取り組みを行っています。時間や会場等の詳細につきましては、各機関へお問合わせください。

## 慈恵医大生涯学習センター

### ●慈恵医大生涯学習セミナー

月例セミナーと夏期セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付致します。

■月例セミナー／開催日時:第2土曜日(休日を除く)  
16:00~18:00(但し、1月、8月、10月、12月を除く)  
場所:慈恵大学病院中央棟8階 会議室

回数	月日(曜)	テーマ	演者
第211回	平成25年 9月14日(土)	インフルエンザ・ノロウイルス対策	感染制御部 中澤 靖 講師
第212回	平成25年 11月9日(土)	糖尿病の最新治療	糖尿病・代謝・内分泌内科 佐々木 敬 教授
第213回	平成26年 2月8日(土)	甲状腺・副甲状腺疾患の診断と外科的治療	乳癌・内分泌外科 武山 浩 准教授
第214回	平成26年 3月8日(土)	画像診断のピットホール	画像診断部 関谷 透 教授

注)一部変更もあり得る。

### ■夏季セミナー

開催日時:平成25年8月3日(土) 16:00~18:30  
場所:東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂(3階)  
テーマ:ここまで来た加齢疾患の最新治療  
(主催)慈恵医大生涯学習センター  
(共催)慈恵医大同窓会、慈恵医師会、港区医師会  
(企画)慈恵医大生涯学習委員会

◎お問合せ先:慈恵医大生涯学習センター  
電話:03-3433-1111(大代表)内線2634

## 東京慈恵会医科大学

### 【国領キャンパス】

#### ●看護学科主催公開講座

回数	月日	時間	テーマ	担当領域
第2回	平成25年 9月28日(土)	13:00~14:30	あなたにも教える命 —心肺蘇生法(AED合)—	成人看護学

◎お問合せ先:医学部看護学科  
電話:03-3480-1151(代表)内線2611

## 附属病院(本院)

### ●新みんなの健康教室

附属病院(本院)では、愛宕山にあるNHK放送博物館と共催で「健康」をテーマとした公開市民講座を毎年3~4回開催しています。

◎お問合せ先:附属病院(本院) 管理課  
電話:03-3433-1111(大代表)内線5131

## 葛飾医療センター

### ●葛飾医療センター公開セミナー

回数	月日	時間	テーマ	講師名
第35回	平成25年 9月14日(土)	14:00~ 15:30	がんについて(仮)	外科 診療部長 小川 匡市 看護師 相磯 美弥子
第36回	平成26年 2月8日(土)	14:00~ 15:30	脳梗塞について(仮)	脳神経外科

◎お問合せ先:葛飾医療センター 管理課  
電話:03-3603-2111(大代表)内線5911

## 第三病院

### ●公開健康セミナー

第三病院では、来院される患者さんやご家族、近隣地域の方々等を対象に第三看護専門学校6階の大教室にて公開健康セミナーを無料で開催しております。  
本年度は9月21日(土)、11月30日(土)、来年1月18日(土)いずれも14:00~15:30の開催が予定されており、現時点でテーマは未定となっております。

◎お問合せ先:第三病院 管理課  
電話:03-3480-1151(大代表)内線3711

## 柏病院

### ●平成25年度地域がん診療連携拠点病院事業市民公開講座

回数	月日	時間	テーマ	講師名	
第11回	平成25年 9月14日(土)	14:00~ 16:30	「がんと食事・お口のケアについて」	栄養部 鈴木 章弘	
			「がんと食事について」		柏歯科医師会 歯科衛生士 未定
			「お口のケアについて」		
2部	特別演奏	ハモカクアールカ			

◎お問合せ先:柏病院 業務課  
電話:04-7164-1111(大代表)内線2153

## 慈恵医師会

### ●慈恵医師会産業医研修会

例年、7月に開催をしています。  
(主催)慈恵医師会  
(共催)東京都医師会

### ●お問合せ先:慈恵医師会 ●

電話:03-3433-1111  
(大代表)内線2636

# JIKEI BULLETIN BOARD

大学公報のまとめ



1.平成25年 全機関同時開催(テレビ会議システム)による新年挨拶交歓会が、1月5日(土)午後4時より大学1号館講堂(3階)において開催された。

1.寺坂 治教授の国領校最終講義が、1月19日(土)午後3時より国領校本館1階講堂において行われた。

1.平成24年度第4回学位記授与式が1月21日(月)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。  
授与された者 大学院修了者 4名  
論文提出者 12名  
計 16名

1.平成25年度大学院医学研究科(博士課程)入学試験が、次の通り行われた。  
1月26日(土) 第二次募集合格者 13名

1.阿部 俊昭教授、森山 寛教授、羽野 寛教授、細谷 龍男教授の退任記念講義が、1月31日(木)午後2時より大学1号館講堂(3階)において行われた。

1.平成25年度入学試験が、次の通り行われた。  
医学科 2月5日(火) 第一次試験  
2月15日(金)、2月16日(土) 第二次試験  
合格者 155名  
看護学科 2月10日(日) 第一次試験  
2月14日(木) 第二次試験  
合格者 75名

1.第88回医学科卒業式、第18回看護学科卒業式が次の通り挙行された。  
3月8日(金) 医学科卒業生 90名  
看護学科卒業生 40名

1.平成24年度 慈恵看護専門学校卒業式が次の通り挙行された。  
3月9日(土) 慈恵第三看護専門学校卒業生 50名  
慈恵柏看護専門学校卒業生 70名

1.平成24年度第5回学位記授与式が3月18日(月)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。  
授与された者 大学院修了者 8名  
論文提出者 9名  
計 17名

1.平成24年度第6回学位記授与式が3月30日(土)午後2時30分より、学長応接室において挙行された。  
授与された者 大学院修了者 7名  
論文提出者 6名  
計 13名

1.平成25年度 大学院医学研究科入学式が、次の通り挙行された。  
4月3日(水) 医学系専攻博士課程入学者 42名  
看護学専攻修士課程入学者 9名

1.平成25年度 入学式が次の通り挙行された。  
4月4日(木) 医学部医学科入学者 112名  
医学部看護学科入学者 60名

1.平成25年度 看護専門学校合同入学式が、次の通り挙行された。  
4月5日(金) 慈恵看護専門学校入学者 102名  
第三看護専門学校入学者 50名  
柏看護専門学校入学者 83名

1.平成25年4月10日(水)午後1時30分より中央講堂において学長就任式が挙式された。

## ■平成24年度決算について

### 1. はじめに

平成24年度は、第三病院医局棟建築工事、看護学科増築工事、柏病院救命救急対応工事、並びに本院外来棟建築の為の内部蓄積実施を目指して運営されましたが、各機関の経営効率化努力と診療報酬プラス改定の双方の効果により、帰属収支差額(収益)は予算を大幅に上回る結果となりました。

### 2. 資金収支計算書

施設・設備関係支出は48億円。主な内容は医療器械12億円、ソフトウェア5億円、看護学科校舎増築5億円、第三病院新1号館新築工事3億円でした。前年度繰越金は428億円でしたが次年度繰越金は465億円となり、繰越金は36億円増加しました。

### 3. 消費収支計算書

収入の部は、前年度比で医療収入が手術件数の増加等の要因により38億円増加、また補助金・寄付金が3億円増加し、帰属収入は前年度比42億円増加の合計971億円となりました。

支出の部は、前年度比で医療経費が8億円増加、人件費が退職給与引当金の増加に伴い20億円増加、更に旧青戸病院と第三病院青樹寮の取壊しに伴う除却損26億円により、消費支出は前年度比56億円増加の合計929億円となりました。

この結果、帰属収支差額(収益)は42億円となり前年度比では14億円の減少となりましたが、除却損を除く実質的な帰属収支差額は68億円と良好でした。

### 4. 貸借対照表

資産の部では建物並びに建設仮勘定が、除却損と減価償却で34億円減少しましたが、これが現預金の増加36億円として存置されています。また、自己資金の部の増加42億円と退職給与引当金の増加8億円が、借入金返済15億円と有価証券の増加35億円に充当されています。

自己資金は合計が1,205億円で、自己資金比率は70%となりました。

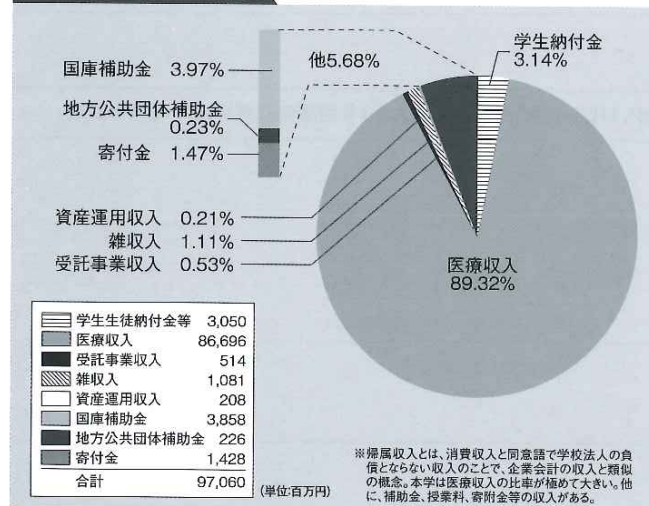
### 5. 決算開示方法について

(1)平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。

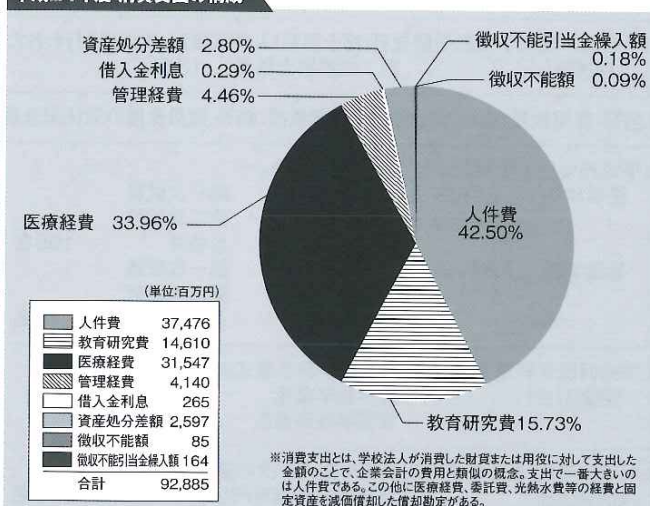
(2)貸借対照表における未収金は、徴収不能引当金164,480,650円を控除して表記しております。

以上

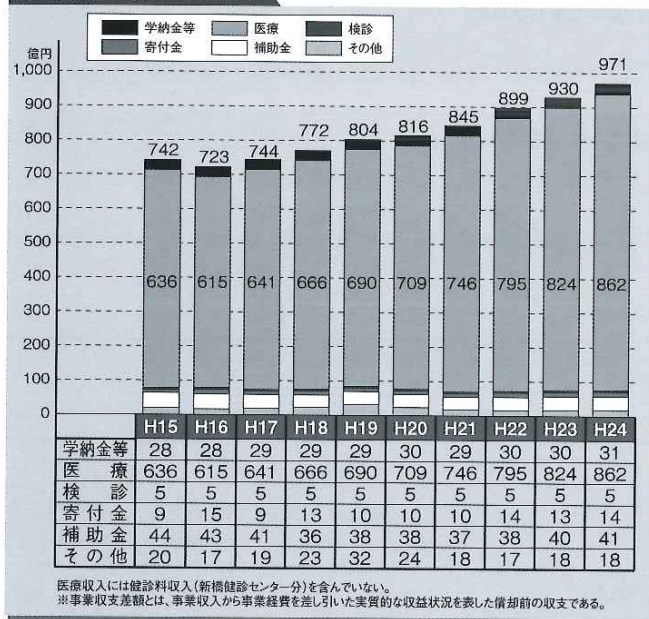
平成24年度 帰属収入の構成



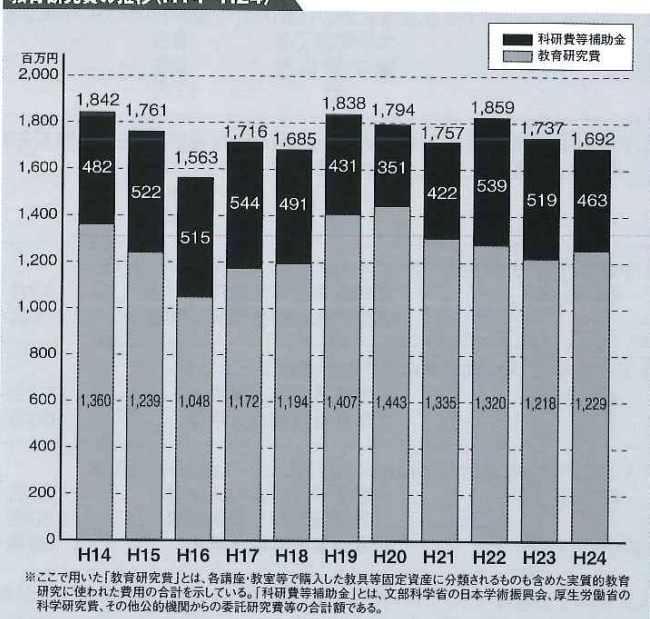
平成24年度 消費支出の構成



帰属収入の推移(H15~H24)



教育研究費の推移(H14~H24)



平成24年度消費収支計算書

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	39,475,851,860	学生生徒納付金	2,842,910,000
教育研究経費	46,157,349,115	手数料	206,754,100
教育研究経費	14,610,376,877	寄付金	1,427,653,670
医療経費	31,546,972,238	補助金	4,085,759,000
管理経費	4,139,809,355	国庫補助金	3,857,897,000
借入金利息	265,137,978	地方公共団体補助金	226,362,000
資産処分差額	2,597,200,062	その他補助金	1,500,000
徴収不能額	85,046,673	資産運用収入	207,744,247
徴収不能引当金繰入額	164,480,650	事業収入	87,209,263,353
		医療収入	86,695,537,764
		雑収入	1,081,156,334
		(うち徴収不能引当金戻入額)	168,039,254
<b>消費支出の部合計</b>	<b>92,884,875,693</b>	<b>帰属収入の部合計</b>	<b>97,061,240,704</b>
消費収入超過額	9,807,253,058	基本金組入額合計	▲214,029,512
基本金取崩額	▲5,844,917,559		
<b>合計</b>	<b>96,847,211,192</b>	<b>合計</b>	<b>96,847,211,192</b>

平成24年度資金収支計算書

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	38,664,429,794	学生生徒納付金収入	2,842,910,000
教育研究経費支出	41,477,056,779	手数料収入	206,754,100
教育研究費支出	11,348,525,893	寄付金収入	1,316,362,313
医療経費支出	30,128,530,886	補助金収入	4,085,759,000
管理経費支出	3,518,370,761	国庫補助金	3,857,897,000
		地方公共団体補助金	226,362,000
		その他補助金	1,500,000
		資産運用収入	207,744,247
借入金支払利息支出	265,137,978	事業収入	87,209,263,353
借入金返済支出	3,436,800,000	医療収入	86,695,537,764
施設関係支出	1,996,934,376	雑収入	913,117,080
設備関係支出	2,800,187,546	借入金収入	1,900,000,000
資産運用支出	7,011,845,082	前受金収入	608,781,862
その他支出	15,089,518,627	その他の収入	18,560,036,998
資金支出調整勘定	▲16,061,478,877	資金収入調整勘定	▲16,007,342,499
期末未払金	▲16,061,478,877	期末未収入金	▲15,438,438,137
		前期末前受金	▲568,904,362
次年度繰越支払資金	46,469,643,626	前年度繰越支払資金	42,825,059,238
<b>支出の部合計</b>	<b>144,668,445,692</b>	<b>収入の部合計</b>	<b>144,668,445,692</b>

平成25年6月文部科学省へ提出

平成24年度貸借対照表

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	107,370,081,181	106,641,219,471	728,861,710
有形固定資産	94,321,715,137	97,570,116,739	▲3,248,401,602
土地	6,331,139,571	6,331,139,571	0
建物	71,720,430,372	74,841,557,397	▲3,121,127,025
構築物	382,798,084	301,993,175	80,804,909
構築物	10,839,592,006	10,800,825,104	38,766,902
教育研究用機器備品	2,027,128,357	1,977,621,025	49,507,332
その他の機器備品	2,791,963,599	2,844,996,954	▲53,033,355
図書	22,692,122	700,980	21,991,142
車両	182,809,118	448,120,625	▲265,311,507
建設仮勘定	23,161,908	23,161,908	0
放射性同位元素	13,048,366,044	9,071,102,732	3,977,263,312
その他の固定資産	402,197,549	388,968,126	13,229,423
長期貸付金	337,182,460	337,232,460	▲50,000
差入保証金	9,558,763,220	5,852,563,220	3,706,200,000
有価証券	1,600,000,000	1,600,000,000	0
退職給与引当金特定預金	1,150,222,815	892,338,926	257,883,889
ソフトウェア	64,815,380,284	60,402,684,914	4,412,695,370
流動資産	46,469,643,626	42,825,059,238	3,644,584,388
現金預金	15,356,950,068	14,406,897,986	950,052,082
未収入金	91,221,885	83,154,313	8,067,572
貯蔵品	2,805,730,000	3,000,522,222	▲194,792,222
有価証券	91,834,705	87,051,155	4,783,550
仮払金			
<b>合計</b>	<b>172,185,461,465</b>	<b>167,043,904,385</b>	<b>5,141,557,080</b>
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	34,344,230,465	34,852,742,272	▲508,511,807
長期借入金	11,349,000,000	12,765,800,000	▲1,416,800,000
退職給与引当金	17,943,882,441	17,132,460,375	811,422,066
長期未払金	5,051,348,024	4,954,481,897	96,866,127
流動負債	17,307,491,460	15,833,787,584	1,473,703,876
短期借入金	966,800,000	1,086,800,000	▲120,000,000
未払金	15,392,491,784	13,895,383,492	1,497,108,292
前受金	608,781,862	568,904,362	39,877,500
預り金	338,064,814	281,449,730	56,615,084
保証金	1,353,000	1,250,000	103,000
負債の部 合計	51,651,721,925	50,686,529,856	965,192,069
基本金の部			
第1号基本金	134,051,034,052	139,895,951,611	▲5,844,917,559
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	6,792,642,511	6,578,612,999	214,029,512
基本金の部 合計	140,843,676,563	146,474,564,610	▲5,630,888,047
消費収支差額の部			
取崩額	▲20,309,937,023	▲30,117,190,081	9,807,253,058
繰越額	▲20,309,937,023	▲30,117,190,081	9,807,253,058
消費収支差額の部合計	172,185,461,465	167,043,904,385	5,141,557,080

平成25年6月文部科学省へ提出

\*徴収不能引当金164,480,650円は未収入金から控除されています。

■平成25年度予算について

1. 予算編成方針

- (1) 既存の債務返済と平成25年度に必要な設備投資を剰余金で賄える予算とする。尚、必要な設備投資とは、①既存建物等の経常的な修繕②医療機器等の経常的な修繕と更新③第三病院新医局棟建設工事④柏病院増床並びに管理棟建設工事⑤西新橋地区再開発の為の近隣土地、建物購入。
- (2) 本院外来棟建築の内部留保として10億円を蓄積する。(平成20年度実績～平成24年度予算で合計120億円を蓄積)
- (3) 帰属収支差額目標を55.6億円とする。  
平成24年度予算は、旧青戸病院建物除却損を主な要因として、大幅な減益予算となったが、平成25年度の帰属収支差額は平成23年度並みに復活することになる。

2. 予算概要

(1) 消費収支計算書

- 収入面は、医療収入は24年実績比+7.8億円の874.7億円を見込むが、補助金と寄付金の減少見込むことから、帰属収入合計は969.4億円に止まる(24年度実績比▲1.2億円/▲0.1%)。
- 支出面は、消費支出合計は913.7億円(24年度実績比▲15.1億円/▲1.6%)。除却損の減少(▲22.5億円)を要因として、24年度実績比で減少する。

24年度実績比で増減の大きい科目は下表の通り。

科目	増加金額	増加率	科目	増加金額	増加率
教育研究費	+5.6億円	+50.4%	光熱水費	+3.0億円	+14.9%
人件費	▲7.1億円	▲1.8%	除却損	▲22.5億円	*
委託費	+6.9億円	+11.3%	諸経費	▲3.0億円	▲8.3%

(2) 資金収支計算書

i) 設備投資

固定資産投資は一般会計・特別会計合計で77.8億円の支出を計画している。

平成26年度以降は西新橋地区整備計画開始による支出増加が見込まれることから、老朽化設備等の対応は極力25年度中に実施する方向で予算を編成し、この結果投資金額が大幅に増加している。(24年度予算比+16.5億円/+27%)

実際の投資にあたっては、経費削減の努力はもとより、都度

費用対効果を検証しながら、最も効果的な投資を行えるよう慎重に進める必要がある。

各機関の主な投資内容は以下の通り。

- 本院は外来棟建築準備工事、放射線治療機器設置工事等で12.4億円の工事に加え、特別勘定の医療器械購入で8.4億円の合計20.8億円の投資を計画する。
- 葛飾医療センターは新病院稼働後間もない為、0.4億円の少額工事のみ。
- 第三病院は電子カルテ導入関連の投資として16.3億円の投資に加え、新医局棟建設として10億円、更に老朽化機械・設備・建物改修費用として3.9億円の合計30.2億円の投資を計画する。
- 柏病院は管理棟建築工事8億円を中心に設備・建物関連で10.2億円、加えて、中材洗浄システム他の医療器械で1.3億円の合計11.5億円の投資を計画する。
- これ以外に通常の医療器械更新費用として、4病院合計で8.4億円を見込んでいる。
- ii) 借入金は例年の賞与資金借入19億円のみを予算化。上述の設備投資は、一部リース取引にするが、原則自己資金で賄う計画である。
- iii) 尚、予算編成方針通り、西新橋地区整備事業積立金として10億円の内部留保を予算化。結果的に次年度繰越金は7億円程度に止まる見込である。

以上

平成25年度 一般会計予算(消費収支)

支出				収入			
科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較	科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較
事業経費				事業収入			
人件費	38,743,069	38,696,116	▲46,953	授業料その他収入	2,968,774	3,107,744	138,970
教育研究費	1,747,243	1,670,811	▲76,432	医療収入	84,268,156	86,966,469	2,698,313
奨学金	35,400	72,400	37,000	衛生管理収入	500,021	500,938	917
医療経費	28,690,194	29,745,296	1,055,102	雑収入	1,095,648	1,027,849	▲67,799
消耗品費	1,479,602	1,543,968	64,366	管理棟収入	34,802	34,802	0
委託費	6,469,038	6,807,535	338,497				
光熱水費	2,127,709	2,311,598	183,889				
営繕費	946,913	1,066,993	120,080				
諸経費	3,325,854	2,990,208	▲335,646				
計	83,565,022	84,904,925	1,339,903	計	88,867,401	91,637,802	2,770,401
事業外経費				事業外収入			
支払利息	7,118	3,816	▲3,302	受取利息	56,854	87,240	30,386
計	7,118	3,816	▲3,302	補助金	3,371,647	3,992,558	620,911
減価償却費				寄附金	838,330	855,095	16,765
建物	232,303	271,366	39,063	計	4,266,831	4,934,893	668,062
構築物	7,225	7,996	771				
設備	140,089	103,921	▲36,168				
教具	264,410	279,584	15,174				
医療器械	729,583	770,298	40,715				
一般備品	136,337	216,650	80,313				
車輦	0	1,285	1,285				
ソフトウェア	166,044	235,124	69,080				
計	1,675,991	1,886,224	210,233				
徴収不能額	60,000	60,000	0	徴収不能引当金戻入額	200,000	200,000	0
徴収不能引当金繰入額	200,000	200,000	0				
資産処分差額	2,444,306	347,124	▲2,097,182				
一般会計収支差額	5,381,795	9,370,606	3,988,811				
合計	93,334,232	96,772,695	3,438,463	合計	93,334,232	96,772,695	3,438,463
一般+特別会計帰属収支差額		5,565,659					

(単位:千円)

平成25年度 特別会計予算(消費収支)

支出				収入			
科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較	科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較
事業経費				事業外収入			
雑費	603,474	336,212	▲267,262	受取利息	49,342	30,000	▲19,342
帳簿印刷物費	0	0	0	雑収入計	3,264	54,212	50,948
備品費	0	0	0	(同窓会)	0	0	0
運搬費	2,207	0	▲2,207	(会費)	0	0	0
委託費	0	1,008	1,008	施設設備使用料収入	3,150	0	▲3,150
建物設備修繕費	1,607	0	▲1,607				
賃借料(仮駐車場)	4,860	0	▲4,860				
消耗雑品費	50,500	0	▲50,500				
雑税	800	150	▲650				
計	663,448	337,370	▲326,078	計	55,756	84,212	28,456
事業外経費				記念事業寄附金	275,000	90,000	▲185,000
支払利息	267,111	212,448	▲54,663				
減価償却費							
建物	2,554,028	2,427,342	▲126,686				
構築物	26,393	32,989	6,596				
設備	107,399	80,672	▲26,727				
教具	43,751	2,516	▲41,235				
医療器械	719,011	691,016	▲27,995				
一般備品	49,474	64,243	14,769				
車輦	0	0	0				
ソフトウェア	100,092	130,563	30,471				
計	3,600,148	3,429,341	▲170,807				
特別会計収支差額	▲4,199,951	▲3,804,947	395,004				
合計	330,756	174,212	▲156,544	合計	330,756	174,212	▲156,544

(単位:千円)

平成25年度 一般会計予算(資金収支)

支 出				収 入			
科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較	科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較
事業経費	38,505,542	38,479,450	▲26,092	事業収入	2,968,774	3,107,744	138,970
人件費	1,747,243	1,670,811	▲76,432	授業料その他収入	84,268,156	86,966,469	2,698,313
教育研究費	35,400	72,400	▲37,000	医療収入	500,021	500,938	917
医薬品費	28,690,194	29,745,296	1,055,102	衛生管理収入	1,095,648	1,027,849	▲67,799
消耗品費	1,479,602	1,543,968	64,366	管理稼収入	34,802	34,802	0
委託費	6,469,038	6,807,535	338,497				
熱水費	2,127,709	2,311,598	183,889				
光熱費	946,913	1,068,993	122,080				
修繕費	3,325,854	2,990,208	▲335,646				
諸経費	83,327,495	84,688,259	1,360,764	計事業外収入	88,867,401	91,637,802	2,770,401
計事業外経費	7,118	3,816	▲3,302	事業外収入			
支払利息	7,118	3,816	▲3,302	受取利息	56,854	87,240	30,386
計	7,118	3,816	▲3,302	補助金	3,371,647	3,992,558	620,911
固定資産	646,925	449,370	▲197,555	附随収入	838,330	855,095	16,765
建設費	7,900	7,500	▲400	計	4,266,831	4,934,893	668,062
設備費	41,604	65,140	23,536				
医療器具	840,000	840,000	0				
一般備品	823,487	264,491	▲558,996				
車両	6,600	5,000	▲1,600				
放射線同位体	41,420	37,020	▲4,400				
構築物	0	0	0				
備蓄金	5,000	0	▲5,000				
ソフトウェア	594,986	348,782	▲246,204				
計	3,007,922	2,017,303	▲990,619				
借入金(返済)	1,900,000	1,900,000	0	借入金(新規)	1,900,000	1,900,000	0
借入金	600,000	600,000	0				
特別会計繰入金	300,000	300,000	0				
特別会計繰入金	5,891,697	8,963,317	3,071,620				
計	8,691,697	11,763,317	3,071,620				
合計	95,034,232	98,472,695	3,438,463	合計	95,034,232	98,472,695	3,438,463

平成25年度 特別会計予算(資金収支)

支 出				収 入			
科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較	科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較
事業経費	603,474	336,212	▲267,262	事業外収入	49,342	30,000	▲19,342
雑費	0	0	0	受取利息	3,264	54,212	50,948
簿記費	0	0	0	雑収入	3,150	0	▲3,150
運搬費	2,207	0	▲2,207	施設設備使用料収入	0	0	0
委託費	0	1,008	▲1,008				
建物設備修繕費	1,607	0	▲1,607				
賃借料(仮駐車場)	4,860	0	▲4,860				
消耗品費	50,500	0	▲50,500				
雑費	800	150	▲650	計	55,756	84,212	28,456
計事業外経費	663,448	337,370	▲326,078	記念事業寄附金	275,000	90,000	▲185,000
支払利息	267,111	212,448	▲54,663	借入金(新規)	0	0	0
借入金(返済)	1,086,800	966,800	▲120,000	長期未払金	0	1,045,000	1,045,000
固定資産	52,870	12,390	▲40,480	特別会計積立金取崩	1,000,000	0	▲1,000,000
建設費	89,166	0	▲89,166	一般会計より繰入金	5,891,697	8,963,317	3,071,620
設備費	563,000	1,230,513	▲667,513	記念事業会計積立金	300,000	300,000	0
構築物	184,346	23,415	▲160,931				
一般備品	3,500	376,000	▲372,500				
教員	4,000	0	▲4,000				
ソフトウェア	0	770,000	▲770,000				
建設仮勘定	2,233,278	3,354,783	1,121,505				
計	3,130,160	5,767,101	2,636,941				
西新地区整備事業積立金	2,000,000	1,000,000	▲1,000,000				
長期未払金	319,174	1,461,547	1,142,373				
次年度繰越金	65,760	737,263	681,503				
合計	7,522,453	10,482,529	2,960,076	合計	7,522,453	10,482,529	2,960,076

平成25年度 記念事業予算(資金収支)

支 出				収 入			
科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較	科目	24年度予算	25年度予算	対前年比較
支払利息	198,392	212,448	▲14,056	受取利息	18,527	14,472	▲4,055
雑費	511,369	126,212	▲385,157	寄附金	275,000	90,000	▲185,000
建物設備修繕費	1,607	0	▲1,607	雑収入	0	54,212	54,212
賃借料(仮駐車場)	4,860	0	▲4,860	借入金(新規)	0	0	0
雑費	0	150	▲150	一般会計より積立金	300,000	300,000	0
借入金(返済)	816,000	966,800	150,800	一般会計より繰入金	650,000	900,000	250,000
建設仮勘定(葛飾)	100,000	0	▲100,000	長期未払金	0	0	0
構築物	5,250	12,390	▲7,140	特別会計積立金取崩	1,000,000	0	▲1,000,000
設備	184,346	23,415	▲160,931	合計	2,243,527	1,358,684	▲884,843
長期未払金	89,166	0	▲89,166				
長期未払金	319,174	0	▲319,174				
次年度繰越金	13,363	17,269	3,906				
合計	2,243,527	1,358,684	▲884,843				

補助金・助成金  
BULLETIN BOARD

平成25年度 科学研究費助成事業(科研費)申請及び採択状況一覧

種 目	25年度※1)			
	新規申請件数	新規内定件数	採択件数 継続内定件数	内定件数合計
新学術領域研究	17	1	3	4
基盤研究(S)	1	0	0	0
基盤研究(A)	3	0	0	0
基盤研究(B)	10	1	8	9
基盤研究(C)	173	27	46	73
挑戦的萌芽研究	41	3	6	9
若手研究(A)	4	0	1	1
若手研究(B)	118	18	32	50
合計	367	50	96	146

※1) 内定件数は平成25年4月1日現在のものである(4月1日時点の転出者分含む。ただし、4月1日付転入者分は含まない)。

先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)

採択年度	氏名(所属・職名)	テーマ
平成22年度	嘉糠洋陸(熱帯医学講座・教授)	病原体媒介節足動物におけるトランスジェンク機構の解明
平成22年度	並木禎尚(臨床医学研究所・准教授)	次世代ナノ診断・治療を実現する「有機・無機ハイブリッド籠型粒子」の四次元精密操作

私立大学戦略的研究基盤形成事業

採択年度	氏名(所属・職名)	テーマ
平成22年度	景山茂(薬物治療学研究室・教授)	DNAマイクロアレイシステムを基盤としたエビゲノム臨床研究と分子標的薬リード創出
平成23年度	松藤千弥(分子生物学講座・教授)	安定同位体医学応用研究基盤拠点(SI医学応用研究基盤拠点)の形成
平成24年度	水之江義充(細菌学講座・教授)	バイオフィルム感染症制御研究拠点の形成
平成24年度	柳澤裕之(環境保健医学講座・教授)	疲労の分子機構の解明による健康の維持と増進を目的とする医学研究拠点の形成



平成24年11月1日

1.平成25年度東京慈恵会医科大学学長候補者及び、附属病院長候補者選挙が平成24年11月14日(水)午後2時より行われた

平成24年11月22日

1.東京慈恵会医科大学学長に松藤 千弥教授が選任された(就任年月日 平成25年4月1日)

1.附属病院長に丸毛 啓史教授が選任された(就任年月日 平成25年4月1日)

1.岩間 桂子整備員(附属第三病院管理課)は、医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣より表彰された

平成24年12月1日

1.鳥海 弥寿雄講師に、准教授を命ずる(特任期間 平成24年12月1日～平成27年3月31日迄)

1.栗原 英明講師に、准教授を命ずる

平成24年12月27日

1.学校法人慈恵大学理事が次のとおり選任されました

理事長 栗原 敏

理事 松藤 千弥 丸毛 啓史 伊藤 洋 谷口 郁夫 清水 光行 橋本 和弘 中川 秀己 井田 博幸 浅野 晃司  
高橋 則子 加藤 一人 高橋紀久雄 香川 草平 高木 敬三 前田 新造

(就任年月日 平成25年4月1日)

1.学校法人慈恵大学評議員が次のとおり選任されました

(寄附行為第24条第1号)

松藤 千弥

(寄附行為第24条第2号)

丸毛 啓史 伊藤 洋 谷口 郁夫 清水 光行

(寄附行為第24条第3号)

橋本 和弘 谷 諭 井田 博幸 安保 雅博 浅野 晃司 山田 恭輔 猿田 雅之 岡部 正隆 竹森 重 柳澤 裕之  
岡野 孝 櫻井美代子 上間ゆき子

(寄附行為第24条第4号)

加藤 一人 高橋 則子 植松美知男 横山 秀彦 小澤かおり 宮崎 栄一 佐藤 哲也 柳澤美津代 川久保 孝

(寄附行為第24条第5号)

高橋紀久雄 香川 草平 須田 健夫 渡邊 盛雄 鎌田 芳夫 穎川 一信 小田 治男 村岡 伸一 赤羽 清彬  
大政 良二

(寄附行為第24条第6号)

高木 公寛 徳川 恒孝 梅溪 通明 栗原 敏 高木 敬三

(就任年月日 平成25年4月1日)

1.阿部 正和氏に、顧問を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.岡村 哲夫氏に、顧問を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.小森 亮氏に、顧問を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.梅澤 祐二氏に、顧問を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.佐々木正峰氏に、顧問を委嘱する(就任年月日 平成25年4月1日)

1.真野 章氏に、顧問を委嘱する(就任年月日 平成25年4月1日)

1.高木 敬三氏に、専務理事を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.谷口 郁夫氏に、常務理事を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.高橋実貴雄氏に、参与を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.伊藤 洋教授に、葛飾医療センター病院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.谷口 郁夫教授に、附属第三病院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.清水 光行教授に、附属柏病院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.松藤 千弥教授に、大学院医学研究科長を兼務とする(就任年月日 平成25年4月1日)

1.福田 国彦教授に、学術情報センター長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.大橋 十也教授に、総合医科学研究センター長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.福島 統教授に、教育センター長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.橋本 和弘教授に、医学科長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.宇都宮 一典教授に、教学委員長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.櫻井美代子教授に、看護学科長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.中村 敬教授に、慈恵第三看護専門学校長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.吉田 博教授に、慈恵柏看護専門学校長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

平成25年1月1日

1.吉田 博准教授に、教授を命ずる

1.児島 章准教授に、教授を命ずる

1.秋葉 直志准教授に、教授を命ずる

1.渡邊 修准教授に、教授を命ずる

1.武田 聡講師に、准教授を命ずる

1.石田 祐一講師に、准教授を命ずる(特任期間 平成25年1月1日～平成27年3月31日迄)

1.河原秀次郎講師に、准教授を命ずる(特任期間 平成25年1月1日～平成27年3月31日迄)

1.大野 岩男氏に、附属4病院総合診療部総括責任者を命ずる

1.大野 岩男氏に、附属病院総合診療部診療部長を命ずる

1.小武海公明氏に、附属柏病院循環器内科診療部長を命ずる

1.上野 豊氏に、附属柏病院整形外科診療部長を命ずる

平成25年1月23日

1.中村 賢助教(心臓外科学講座)は、平成24年11月19日、心肺停止状態に陥った男性を適切な救命処置を行い救命した功勞に  
対し、柏市消防局より感謝状が贈られました。本学では、就業規則第96条「その他表彰に値する善行のあった者」に基づき、理  
事長より表彰されます。

平成25年1月24日

1.小川 武希教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.中川 秀己教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.相羽 恵介教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.井田 博幸教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.浅野 晃司准教授に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.高橋 則子看護部長に、附属病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.吉田 和彦教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.児島 章教授に、葛飾医療センター副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

1.岡 尚省教授に、附属第三病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

- 1.中村 敬教授に、附属第三病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)
- 1.古田 希准教授に、附属第三病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)
- 1.岡本 友好准教授に、附属第三病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)
- 1.岸本 幸一教授に、附属柏病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)
- 1.東條 克能教授に、附属柏病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)
- 1.吉田 博教授に、附属柏病院副院長を命ずる(就任年月日 平成25年4月1日)

平成25年2月1日

- 1.下山 直人氏に、教授を命ずる
- 1.山寺 亘講師に、准教授を命ずる
- 1.石田 厚講師に、准教授を命ずる
- 1.野嶋 公博講師に、准教授を命ずる
- 1.下山 直人氏に、附属病院緩和ケア室長を命ずる

平成25年3月1日

- 1.野村 浩一講師に、准教授を命ずる
- 1.並木 禎尚講師に、准教授を命ずる
- 1.安保 雅博氏に、附属柏病院リハビリテーション科診療部長(兼任)を命ずる

平成25年3月15日

- 1.濱 邦久氏に、学校法人慈恵大学監事を委嘱する(就任年月日 平成25年4月1日)
- 1.岡島 進一郎氏に、学校法人慈恵大学監事を委嘱する(就任年月日 平成25年4月1日)

平成25年3月31日

- 1.阿部 俊昭教授は、定年により職を解く
- 1.森山 寛教授は、定年により職を解く
- 1.羽野 寛教授は、定年により職を解く
- 1.細谷 龍男教授は、定年により職を解く
- 1.谷内 修教授は、定年により職を解く
- 1.多田 紀夫教授は、定年により職を解く
- 1.阪本 要一教授は、定年により職を解く
- 1.鈴木 政登教授は、定年により職を解く
- 1.横山 淳一教授は、定年により職を解く
- 1.高木 敬三教授は、定年により職を解く
- 1.溝呂木 ふみ教授は、定年により職を解く
- 1.伊坪 真理子教授は、定年により職を解く
- 1.小林 直教授は、定年により職を解く
- 1.神谷 直樹教授は、定年により職を解く
- 1.寺坂 治教授は、定年により職を解く
- 1.寄付講座 遺伝病研究講座は組織を解消する

平成25年4月1日

- 1.梅澤 祐二氏に、常勤顧問を命ずる
- 1.衛藤 義勝客員教授に、名誉教授の称号を贈る
- 1.池上 雅博准教授に、病理学講座担当教授を命ずる
- 1.横尾 隆講師に、内科学講座 腎臓・高血圧内科担当教授を命ずる
- 1.村山 雄一教授に、脳神経外科学講座担当教授を命ずる
- 1.小島 博己准教授に、耳鼻咽喉科学講座担当教授を命ずる
- 1.木山 秀哉准教授に、教授を命ずる
- 1.川村 哲也准教授に、教授を命ずる
- 1.尾上 尚志准教授に、教授を命ずる
- 1.浅野 晃司准教授に、教授を命ずる
- 1.薄井 紀子准教授に、教授を命ずる(特任期間 平成25年4月1日～平成28年8月31日迄)
- 1.加地 正伸准教授に、教授を命ずる(特任期間 平成25年4月1日～平成27年3月31日迄)
- 1.又井 一雄准教授に、教授を命ずる(特任期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日迄)
- 1.高田 耕司准教授に、教授を命ずる
- 1.卯津羅 雅彦氏に、准教授を命ずる
- 1.吉田 正樹講師に、准教授を命ずる
- 1.吉田 正樹講師に、准教授を命ずる
- 1.香月 毅史氏に、看護学科教授を命ずる
- 1.田中 幸子氏に、看護学科教授を命ずる
- 1.細坂 泰子講師に、看護学科准教授を命ずる
- 1.柳澤 裕之教授に、大学自己点検・評価委員会委員長を命ずる
- 1.頼川 晋教授に、大学広報委員会委員長を命ずる
- 1.常岡 寛教授に、生涯学習センター長を命ずる
- 1.川村 哲也教授に、C.P.C委員会委員長を命ずる
- 1.濱中 喜代看護学科教授に、看護学科教学委員長を命ずる
- 1.北 素子看護学科教授に、看護学科学部部長を命ずる
- 1.持尾 聰一郎看護学科教授に、看護学科図書委員会委員長を命ずる
- 1.加地 正伸氏に、晴海トリートメントクリニック所長を命ずる
- 1.加地 正伸氏に、総合健診・予防医学センター晴海健診センター所長を命ずる
- 1.村山雄一氏に、附属4病院脳神経外科総括責任者を命ずる
- 1.池上 雅博氏に、附属4病院病院病理部総括責任者を命ずる
- 1.黒坂 大太郎氏に、附属病院リウマチ・膠原病内科診療部長を命ずる
- 1.村山 雄一氏に、附属病院脳神経外科診療部長を命ずる
- 1.加地 正伸氏に、晴海トリートメントクリニック診療部長を命ずる
- 1.森 豊氏に、附属第三病院糖尿病・代謝・内分泌内科診療部長を命ずる
- 1.土橋 史明氏に、附属第三病院腫瘍・血液内科診療部長を命ずる
- 1.薄井 紀子氏に、附属第三病院輸血部診療部長を命ずる
- 1.大槻 稔治氏に、附属第三病院救急部診療部長を命ずる
- 1.村山 雄一氏に、附属病院脳血管内治療部診療部長(兼任)を命ずる
- 1.東條 克能氏に、附属柏病院総合診療部診療部長(兼任)を命ずる
- 1.大谷 卓也氏に、附属病院整形外科診療部長代行を命ずる

- 1.舟崎 裕記氏に、スポーツウェルネスクリニック診療部長代行を命ずる
- 1.野中 雄一郎氏に、総合母子健康医療センター小児脳神経外科部門診療部長代行を命ずる
- 1.鷹橋 浩幸氏に、附属病院病院病理部診療部長代行を命ずる
- 1.齋藤 桂介氏に、附属第三病院呼吸器内科診療部長代行を命ずる
- 1.寄付講座 慢性腎臓病病態治療学講座を設置する

■大学院修了者

24.11.14	黒澤 聡子				
24.12.26	宇田川友克				
25.2.13	堤 祐介	東條 慎次郎	小林 伸行	清水 昭博	錢谷 平
25.2.27	落合恵理子	的場圭一郎			
25.3.13	清水 昭宏	湯川 豊一	ピークロフト三枝	絵美	
25.3.27	牛久智加良	永田 智行	中尾 彩乃		
25.4.10	目澤 秀俊				
25.4.24	中野 真範	飯倉 克人			

■学位論文通過者

24.11.14	月館 利治				
24.11.28	末次 靖子	大谷 友彦			
24.12.12	吉澤 威勇	土橋 久士			
24.12.26	稲垣 卓也	矢野健太郎	鈴木 孝秀	中山 次久	結城 一郎
25.1.9	須田 稔士	郭 樟吾			
25.1.23	沼田 尊功	吉田 拓人	柳沼 樹宏	菅 一成	
25.2.13	小島 圭子	有泉 光子			
25.2.27	清水 純	海渡 信義	磯島 晃	高城 亮	玉井 尚人
25.3.13	平野 景太	力武 正浩	近澤 仁志	森 良介	
25.4.10	森 恵莉	清野 洋一			
25.4.24	孫 敬洙	加藤 美由紀	樋之口潤一郎	田邊 陽子	吉田 隆一

訃報

- 1.萩野 信義 チュレイン大学教授(昭和32年 本学卒)は、2月28日逝去されました。
- 1.相澤 良夫教授(消化器・肝臓内科)の御母堂様が、4月14日逝去されました。
- 1.近藤 勇名誉教授(細菌学講座)は、4月24日逝去されました。

役員人事

平成25年3月31日 退任 小島 憲明 監事

教職員人事

(慈恵看護専門学校)

平成25年3月31日 定年退職 2等級・事務員 横浜 清子  
依願解職 4等級・看護教員 千葉早希子  
3等級・看護教員 真鍋 千佳

平成25年4月1日 昇 級 8等級・看護教員 教務主任 増井 孝子  
6等級・看護教員 佐藤千恵子  
4等級・看護教員 平田 依理  
4等級・事務員 橘川 直子

転 入 4等級・看護教員 渡邊 沙織 附属病院 看護師  
転 出 8等級・看護教員 上間ゆき子 柏看護専門学校 副校長

(教務主任養成講習会)

平成25年3月31日 定年退職 8等級・看護教員 栗原 則子

(総合医学研究センター)

平成25年3月31日 退任 社会医学研究部 主任研究員 高津 光洋  
平成25年4月1日 新任 医療教育研究部 主任研究員 小路美喜子

行事

平成24年11月20日(火) 東京慈恵会理事会が開催された。

平成24年12月1日(土) 慈恵看護専門学校戴帽式が挙行された。 1年生(63期生) 102名

平成25年3月9日(土) 慈恵看護専門学校卒業式が挙行された。 卒業生 79名

平成25年3月26日(火) 東京慈恵会理事会、評議員会、定期総会が開催された。

平成25年4月5日(金) 慈恵看護専門学校入学式が挙行された。 入学生(64期生) 102名

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

- (目的)  
第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。
- (基本理念)  
第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。
- (法令の遵守)  
第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。
- (人間の尊重)  
第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。
- (取引業者との関係)  
第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。
- (反社会的勢力との関係)  
第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。
- (過剰な接待接待の禁止)  
第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受け取りを禁止する。
- (環境保護)  
第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。
- (公私の区別)  
第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。
- (日常の業務処理)  
第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。  
2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。  
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。  
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。
- (虚偽の報告・隠蔽)  
第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。
- (教育・指導)  
第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。
- (告発)  
第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。  
2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。
- (監査・報告)  
第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。
- (違反の処理)  
第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。
- 附 則  
1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。  
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

# 創立百三十年記念事業募金

BULLETIN BOARD

## 寄付者名簿

・平成24年11月1日～平成25年4月30日までに戴いたご寄付  
・ご芳名は敬称を省略し、五十音順に掲載しました

### 同窓生

(医)田尻整形外科  
青戸内科伊達会代表永野允  
鎌田裕子  
鎌田芳夫  
児玉隆治  
小林正之  
近藤直弥  
鈴木克契  
鈴木旦磨  
鈴木有紀子  
瀬川豊  
根本達久  
細谷律子  
堀和彦  
本郷可夫

### 同窓会支部会・クラス会

慈大五二会 会長相羽恵介  
慈大二七会  
同窓会茨城支部  
同窓会中野支部  
平成4年卒同窓会

### 父兄会

石倉美治  
生坂政臣  
稲村佐知子  
川本英三  
黒崎百合子  
古守知典  
田中祥司  
知野彰一

中村瑞貴  
増田修也  
南高節

### 教職員

高木敬三  
川久保孝  
川村将弘  
三枝昭裕  
三枝裕和  
齊藤真梨恵  
佐藤博  
鈴木理恵

### 一般個人

井上明子

### 企業・一般団体

(株)竹中工務店 東京本店  
(株)テクノメディカ  
(株)ホギメディカル  
三愛化成商事(株)  
三協ラボサービス(株)  
シスメックス(株)  
新生食品(株)  
大成設備(株)  
ロシュ・ダイアグノスティックス(株)  
慈恵ファシリティサービス(株)  
三機工業(株)

匿名希望者は除いて掲載させて頂きました。  
分割寄付のご芳名は初回のみ掲載させて頂きました。

学祖・高木兼寛先生は明治14年5月1日(1881)に、東京慈恵会医科大学の前身である成医会講習所を開設しました。成医会講習所開設以来130年の間、質の高い医療人を育成し、医療を通して社会に貢献するとともに、医療を支える研究の振興に努めてまいりました。

この間、医療は高度・専門化し、それに対応する専門医を育成するとともに、一方では総合的診療能力を備えた医師の育成が求められています。本学の使命を果たすためには、教育・研究施設の改善・充実を図り、附属病院の施設整備を行うことが喫緊の課題です。

本学は大学の教育研究施設の他に4附属病院を有しており、長・中期計画を立ててこれらの施設の整備を行っています。

これまで、平成12年(2000)には本院中央棟を、平成14年(2002)には大学1号館を完成させました。更に、平成24年(2012)には東京慈恵会医科大学葛飾医療センターを開院し順調に運営されています。

また、本院外来棟は開設以来40年を超え、病院の老朽化が進み手狭になっています。中央棟に隣接して外来棟を建て、患者さんの利便性を図るとともに、病院と大学の建物を整理し、機能的なキャンパスに改変することを視野に入れて建築計画が検討されています。今後、順次、国領キャンパス、第三病院、柏病院の整備が必要となります。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となり、大学も自助努力を重ねておりますが、資金の調達には限界があります。

本学の将来計画と学祖の建学の精神にご賛同賜り、これまで関係各方面から心温まるご支援をいただきました。ご協力賜りました方々の温かいご芳志に厚くお礼申し上げます。日本の経済状況がより一層厳しくなっている中で皆様にご協力をお願いするのは大変心苦しいのですが、皆様のご支援が必ずや国民の健康と福祉に還元されることをご理解下さいますようお願い申し上げます。我々の使命を果たすためにさらに一層の努力をしてまいりますので、今後とも関係各位の全面的なご協力を心よりお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

## 大学広報委員長としての10年を振り返って

大学広報委員会 前委員長  
名誉教授 阿部 俊昭

退任の前の10年間、初代の大学広報委員長をまかされたことは、本学での医師人生を総括する、貴重な経験となりました。本学は「人間中心の医学」を建学の精神としています。私たち教職員に代々涵養されている「慈しみ恵む心」は、患者の命と健康、未来を委ねられる、責任感のある医師を輩出する原動力であります。世界有数の術式、世界屈指の症例数を誇る分野も少なくありません。これら本学の優れた学風、医師、診療、研究、教育の変遷を、The JIKEIや大学ガイドブックを通じて、教職員、同窓の先生方、学生諸君にお伝えしてきました。同時に大学ホームページにより、患者・社会への情報提供の充実に努めました。これらの広報活動が皆さまのモチベーションや誇り、本学の社会的な信頼の構築に貢献できたとすれば、望外の喜びです。本学のビジョン「社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受ける質の高い医科大学」を実現するには、国際社会も視野に入れた情報発信、広報戦略が重要です。大学広報委員会の役割も、今後ますます大きくなっていくことでしょう。



## 編集後記

この度、大学広報委員会委員長を拝命致しました颯川です。本学では4月に松藤学長が就任され、新体制がスタート致しました。今回の特集では、松藤学長と丸毛附属病院長からのメッセージをお届け致しました。新体制のもと新たな飛躍を目指す本学に、今後ともご注目いただければ幸いです。本誌では、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしてまいります。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

大学広報委員会委員長 颯川 晋

The **JIKEI**

2013 Summer Vol.21

発行	学校法人 慈恵大学
発行人	理事長 栗原 敏
連絡先	〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 学校法人 慈恵大学 広報課
電話	03-3433-1111(大代表)
F A X	03-5400-1281
e-mail	koho@jikei.ac.jp
号数	第21号
発行日	2013年7月18日

<http://www.jikei.ac.jp/>